【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　中部中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 夢中になる授業 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ＜主な方策＞<br>・少人数授業、補充学習、家庭学習の充実<br>・主体的・対話的な深い学びの実践　「学び合い授業」の実施<br>・全国学調、体力テストの分析と対策　保幼小中連携による学びの確認<br>＜成果＞<br>・授業の形態は生徒の実態と単元計画に合わせ、適切な方法で行われ、効率的に授業が行われている。<br>・授業改善に向けては、①校長の観察・助言　②全員一回以上の授業公開　③教育アドバイザーや特別支援Co.の訪問支援　④教育委員会に依頼してのミニ研修　など、効果的にPDCAが行われている。<br>・「書く力」と家庭学習の充実に向け、予定帳と自主学習ノートを統合した「DAILY STUDY」を作成、配布し取組みを進めた。<br>＜課題＞<br>・研修主題や中学校区学びのルールなど、すべての授業において全職員が意識して取り組む。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | さまざまな個性が輝く生徒 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ＜主な方策＞<br>・外国籍生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障<br>・合理的配慮と基礎的環境整備<br>・認め合い、高め合う人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践<br>・さわやかな挨拶の励行と自主性を尊重した部活動の充実<br>＜成果＞<br>・外国人生徒支援委員会と校内特別支援委員会が定例化し、機能的・組織的になった。<br>・道徳の学年公開授業を学期ごとに行い、チームとして授業を計画・実行でき、教育委員会指導主事から的確な助言と今後にむけての示唆を受けた。<br>・行事、生徒会活動等、「生徒が前面にでる取組み」を仕組むことは、生徒の言語活動の充実とともに、教員の指導方法の振り返りと向上につながった。<br>＜課題＞<br>・学校に来にくくなっている生徒も含め、生徒個々の課題に目をむけ、すべての生徒に光の当たる取組を仕組んでいかなければいけない。 | |

| 重点目標３ | やりがいを持って生徒と向き合える教職員 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜主な方策＞<br>・家庭訪問、教育相談、個人ノート等、対話を中心に据えた生徒理解の実施<br>・豊かな教育環境の整備につとめる教員、事務職員、用務員の協働<br>・教職員の健全な心身の維持増進に向けた総勤務時間の縮減<br>＜成果＞<br>・上記の方法により得た生徒情報について、生徒指導委員会で共有し、個別に検討、SCや外部との連携など、組織的に対応できた。<br>・教育環境については、教員、事務職員、用務員が主体的に動き、また、連携しながら整備に努めることができた。<br>＜課題＞<br>・個別の課題・背景が多様で、中には学校に来られていない生徒がいるのが現実である。教育行政、医療、福祉との連携をさらに進め、生徒理解とその手立てを模索していきたい。<br>・部活動時間の見直し、定時退校日の設定、スマート会議の励行、休暇の積極的取得により取組みは進んでいるが、多様な教育ニーズに対応するため、総勤務時間の縮減を実感するにいたっていない。 | |

| 重点目標４ | チームＣＨＵＢＵ | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜主な方策＞<br>・運営協議会（コミュニティスクール）との協働<br>・地域中心のスペシャリスト授業、職業体験、福祉学習等の体験的学習の実施<br>・保護者、地域、小学生を対象とした学校見学会の充実<br>＜成果＞<br>・「評価と参画」をモットーにコミュニティスクール運営協議会が機能し、教育活動を多く参観していただき、前向きなご意見をいただいている。<br>・運営協議会委員と生徒のパネルディスカッションを実施し、生徒のキャリア教育につながった。<br>・長年の取組みが評価され、「平成２９年度『地域学校協働活動』推進に係る文部科学大臣表彰」を受けた。<br>・地域、PTAと協働しての活動は中部中の教育活動に根付いており、生き生きと活動する生徒の姿から地域もその意義を感じてくれている。<br>・ホームページはよく更新され、関心も高まり、閲覧数も増えた。<br>＜課題＞<br>・テスト翌日の授業公開等、日程的に再考が必要。<br>・より多くの地域協力者の参画に向けて、保護者や地域のニーズを把握したうえで、内容を充実させていく。 | |

２　改善方針

| |
|---|
| ・前述の＜課題＞解決に向け、課題を共有し、主任、担当を中心とした組織としての計画、実行、検証を進める。<br>・コミュニティスクール運営協議会や民生・児童委員や主任児童委員等、地域の学校協力者との連携を密にし、学校、家庭、地域が三位一体となって教育を進めたい。 |

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　橋北中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 確かな学力の定着 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | １．反復や繰り返しによる基礎的基本的な学習の定着をはかります。<br>２．少人数のよさを活かし、きめ細かい指導を工夫します。<br>３．問題解決能力の向上をめざし、アクティブ・ラーニングによる授業づくりをすすめます。<br>４．家庭学習の取り組みをすすめます。<br>５．働きやすい職場環境づくりを進め、教職員の自己相互研鑽を深め、教師力の向上をはかります。<br>【成果】<br>・２，３年生で行った「習熟度別授業」は、生徒個々へのきめ細やかな指導が可能となり、教育効果が高かった。<br>・教師全員が「問題解決学習（５つのプロセス）」に心掛け、「めあて」、「振り返り」について意識して授業を行うことができた。<br>・教科の壁を超えた研修会をたくさんもち、自己相互研鑽を深める取り組みを行うことができた。<br>【課題】<br>・自主学習ノートにより家庭学習の定着に一定の効果をあげたが、低学力生徒には習慣化を図ることが難しかった。<br>・教職員の総勤務時間縮減に向けて取り組んだが、教職員の根本的な意識改革までは至らなかった。<br>・ティーム・ティーチングにおいて、Ｔ２が補助的な役割が主になっており、授業中の指導での役割分担が機能していないため、Ｔ１とＴ２との打合せ時間を生み出し効果的な指導を考えていくべきであった。 | |

| 重点目標２ | キャリア教育の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | １．自立に向けて「当たり前のことを当たり前にできる」指導をします。<br>２．成就感や自己肯定感を高める教育活動を工夫します。<br>３．さまざまな活動を通して豊かな心と健康な体づくりをすすめます。<br>４．社会的・職業的自立に向けた４つの力の向上を意識した教育活動をすすめます。<br>（４つの力：つながる力、みつめる力、うごく・いかす力、めざす力）<br>５．特別支援教育の充実を図ります。<br>【成果】<br>・外部指導者をたくさん招聘し，夢や志，広い視野を持たせるきっかけづくりができた。<br>・学校行事や生徒会行事において、生徒主体の取り組みを行ったことにより、自己肯定感を高めることができた。<br>・教育活動全般（進路指導、ペア学習、グループ学習等）で、４つの力を意識した授業づくりを行った。<br>【課題】<br>・１小１中の小規模校で自己肯定感を高めることは大変困難であるが，あきらめずに取り組んでいきたい。<br>・４つの力について教師も生徒も、もう少し意識して教育活動を行っていくべきであった。来年度は、そのための方策が必要である。<br>・さまざまな教育活動を通して、コミュニケーションの取り方の工夫・改善や自分を出せるような雰囲気づくりを行い、自己肯定感を高めていきたい。<br>・特別支援教育について、支援学級生徒や発達に課題のある生徒に対して教師間の連携が不十分であったため特別支援教育指導委員会を中心として、個々の生徒の状況や効果的な支援方法等を教職員へ随時提案し、連携をとっていく必要がある。 | |

| 重点目標３ | 地域とともにある学校づくり | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | １．地域人材を活用した教育活動をすすめます。<br>２．生活習慣の向上を家庭・地域に働きかけます。<br>３．学びの一体化による保幼小中の連携をすすめます。<br><br>【成果】<br>・地域とのさまざまな連携を通して，生徒に「地域の役に立ちたい」という意識が芽生えてきた。<br>・地域の人材活用は、各学年ともよく行っており、人との出会いや考え方、生き方に多く触れることができ、小規模校のデメリットをある程度改善し教育効果が上がった。（武道、キャリア教育、人権教育等）<br>・家庭と連携しながら生活習慣の向上を働きかけ、生徒の成長へとつなげることができた。<br>・学びの一体化において、新しくできた橋北こども園の参観等、実際に教師が見て感じる機会を設定し、理解を深めた。<br><br>【課題】<br>・幼稚園が分離したことで，連携がとりにくくなったが、可能な範囲で連携をとっていきたい。<br>・昨年度に比べると、小中の連携が少なかった。<br>・教科の内容について小学校と連携していくだけでなく、人権・道徳・行事なども小学校の内容を受けて考えていきたい。<br>・スマホの使用により生活習慣が整っていない生徒がいる。学びの一体化でも話題として取り上げ、園小中で継続した保護者の啓蒙等の取り組みが必要である。<br>・生活習慣の向上のために、家庭・地域の連携をさらに密にする必要がある。<br>・地域連携は行ってはいるが、単発的で「ねらい」をもった計画がなされていない。 | |

２　改善方針

〇家庭学習の習慣化が図られていない生徒がいるため、自主学習ノートのより効果的な使用方法を模索していく。

〇「社会的・職業的自立に向けて必要な４つの力の向上」では、その力が具体的にどのようなものであるか、どうすれば向上させることができるか等の研究を深化させるべきである。

〇０次対応を心がけ、授業・学活での生徒の様子把握だけでなく、休み時間・部活動等の様子、職員間との連携をこまめに行い、個々の生徒との途切れない関わりを日ごろから大切にする。

〇生徒の実態に応じた授業を心がけ、振り返りシートやノートの活用を工夫する。

〇通常学級での授業の様子、困っていることなどについて聞き取り、特別支援教育指導委員会にて方策を検討し、全体に提案後、実行するという一連の流れをスピード感をもって行う。

〇生活習慣の向上については、生徒の現状の課題を家庭訪問や通信等を通じて保護者に伝えることを充実させて、家庭と連携をした生活習慣改善を行っていく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　港中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 心を豊かにする | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>◎認め合い高め合う仲間づくりの進展　＊学年づくり・学級づくり・班づくりの推進　＊道徳・人権教育の推進　＊学校行事の充実　＊学年行事の充実　＊生徒会活動の充実<br>◎基本的な生活習慣の定着とよさの伸長　＊あいさつ、清掃活動、身だしなみの定着<br>◎キャリア教育の推進　＊社会とのつながりを意識した学習と体験<br>〇教育相談やカウンセリングの充実 〇文化活動の充実 〇読書活動の推進（1分間コメント）<br><br>【成果】<br>・教科授業だけでなく、道徳、学級活動等、様々な場面で小グループを活用することにより、仲間づくりを進展させることができた。また、各教室に小グループ用のホワイトボードセットを置いたことは、グループによる話し合い活動、仲間づくりに役立った。<br>・体育大会や文化祭等の学校行事、修学旅行、社会見学や自然教室等の学年行事をリーダー育成、仲間づくりの場と捉え、生徒主体で活動する場を設定したことで、上級生としての自覚と責任感の醸成、リーダー育成が図れた。<br>・花植え活動や、「港地区調べ」、阿瀬知川清掃等、地域とのつながりを意識した活動を、継続的に行っていることに加え、今年度は浜田諏訪太鼓の講演会を行うなど、地域とのつながりが深まっている。<br>・1分間コメントは、話す力の向上に役立っている。また、各学級より選ばれた生徒が全校集会で代表として話をする機会を設けたことは、話す生徒、聴く生徒共によい経験となっている。<br><br>【課題】<br>・学校行事、学年行事において、ねらいを十分に確認しないまま、前年度同様という形で進めてしまうことがあった。<br>・教科授業、諸行事を含め、すべての教育活動を通して、自己肯定感及び自尊感情を高めるための手立てや教師の働きかけを工夫していく必要がある。<br>・あいさつ、清掃など、基本的な生活習慣が身についている生徒が多いが、個人差があり、教育相談の時間を有効に活用して、個別にきめ細かく対応していく必要がある。個を大切にする心を育成することで、不登校解消につなげていきたい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 知恵を育む | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>◎基本的な学習習慣の定着　＊学ぶ目的を意識した指導の充実　＊家庭学習の習慣化　＊学び方指導と補充学習の充実、定例化<br>◎学び合う授業の充実　＊話したり聴いたりするｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力をつける学習の推進<br>〇学力調査・学習評価の活用 〇少人数授業等を活用したきめ細かな指導 〇朝の読書活動の継続、図書館活動の充実 〇特別支援教育の推進<br><br>【成果】<br>・教科授業においては、生徒がより意欲を持って授業に臨めるように、授業でどんな力をつけさせたいのかを明確にして、授業改善を進めることができた。<br>・全国学力調査をはじめとする各種調査や校内での定期テストなどで、客観的な数字として、成果が出ている。また、授業改善が進み、アクティブな授業が増えており、学習習慣が定着すると同時に、生徒どうしが学び合う場面が増えてきた。<br>・特定の教科ではなく、多くの教科でグループワークを取り入れており、グループによる意見交換、意見集約がスムーズに行えるようになった。<br><br>【課題】<br>・小学校の学習内容が未定着、外国籍で教科学習における日本語力が不足、集団活動が苦手で集団に馴染めないなど、学習課題を持つ生徒の学習の保障をどのように進めていくか、一人では学習内容理解が難しい生徒の家庭学習習慣をどのように確立していくか、手だてを考える必要がある。<br>・学び合いをめざす授業をしていても、わかる生徒がわからない生徒に教えるといった教え合いという形になりがちで、高いレベルでの学習をすることが難しいことがある。 | |

| 重点目標３ | 安全で健康な生活を送る | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>◎安全指導の充実　＊体験活動等を活かした安全教育　・生活安全　・交通安全　・災害安全　・ネットモラル教育<br>◎健康な体づくり　＊基本的な生活習慣の定着　・早寝早起き朝ごはんの習慣の定着　・食の大切さの意識化（食育）　＊体力、運動能力の向上　・保健体育科授業の充実　・部活動の充実　・休憩時間の体育館や運動場の利用<br><br>【成果】<br>・応急手当、災害時の対応、心肺蘇生法等の保健授業、防災教室に加え、今年度は本校を避難集合場所とした地区防災訓練に参加したことにより、生徒の防災への意識を高めることができた。<br>・道徳、特別活動を含め、様々な場面で、ＳＮＳを介したトラブルに対する未然防止のための指導を行った。トラブルの芽が見えかけたら、被害が拡散・長期化しないよう迅速で適切な初期対応を心がけた。<br>・部活動指導については、健康・安全を最優先に考え、単に体を動かすというのではなく、一人ひとりが目標を持ち、仲間の活動を見て学ぶことや、考えて自発的に行動することを指導してきた。その結果、意欲的に活動する生徒が増えてきた。<br><br>【課題】<br>・登下校時、道いっぱいに広がる姿が見られ、交通安全に対する意識が低いことが懸念される。交通事故から身を守るためには、体験的な活動に加え、交通ルールや自動車等の運動の特性、自らの身を守るための知識など、理論面での学習が必要である。<br>・体育の授業が好き、運動するのが好きという生徒は多いが、運動能力テスト結果から、相対的に運動能力が高い生徒の割合は少ない。保健体育教師や一部の運動部顧問に任せるのではなく、学校として、具体的な方策を立てる必要がある。 | |

| 重点目標４ | “学び舎”をつくるための手段 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】◎教師力の向上　＊グループを活用した授業や問題解決能力を高める授業を目指した研修の充実、ＯＪＴの推進　＊全教育活動の点検と改善　・教育課程の見直し　・日常生活の安定化　・危機意識の共有化　・ビジョンの進捗管理　・ゆとりある教育活動<br>◎「なめらかな縦の接続」を意識した学びの一体化の推進　＊授業参観　・乗り入れ授業を通じての子どもの課題と手だての共有化<br>◎保護者、地域との協働　＊学校ＨＰや各種通信での情報発信　＊コミュニティスクール運営協議会との連携<br><br>【成果】<br>・校内研修委員会が中心となって、問題解決型の授業づくりを目指した活動を進めることができた。四日市モデルを活用した指導案を全員が作成し、日々の授業改善を図り、教職員の意識が向上している。<br>・日常の施設・設備の整備を含め、落ち着いた学習環境を維持していることが、生徒のこころの安定と授業の充実につながっている。<br>・日々の教育活動における生徒の様子を学校ホームページを更新することを通して、保護者や地域の方を含め、多くの方々に情報発信することができた。<br><br>【課題】<br>・中一ギャップをなくし、段差のない教育を進めるために学びの一体化において、小学校と連携をしているが、活動の振り返りの時間が十分に確保できず、見直し・改善が容易ではない。 | |

２　改善方針

【重点１】「心を豊かにする」について
・グループワークトレーニングを充実させ、授業をはじめとして教育活動のあらゆる場面で、生徒の達成感や満足感を高め、自尊感情の向上につなげるような機会をできるだけ設定する。
・生徒が「将来どんな人間になりたいか」について考えられるような機会を各種行事、道徳や人権学習を通して設定する。
【重点２】「知恵を育む」について
・生徒の家庭学習の習慣化を図るため、全校体制で「自主勉ノート」を有効活用する。
・生徒の自主的な学習を奨励すると共に、学習課題を工夫することで、個に応じた学力の育成に努める。
【重点３】「安全で健康な生活を送る」について
・生徒自身が体力の向上を実感できる体育科授業、運動部活動を計画・実行する。
・交通安全に関して、生徒の実態を把握したうえで、交通安全教室等を実施する。
【重点４】「“学び舎”をつくるための手段」について
・教師一人ひとりの授業実践力の向上を目指して、教師全員が授業を公開し、相互に参観し、評価し合うことを通して、授業改善に取り組む。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　塩浜中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 確かな学力の向上…知 | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ＜基礎的・基本的な力の定着＞<br>○少人数ということもあり、生徒の特性に応じた細やかな指導ができた。<br>○質問日や補充学習日を設定し、学習の補充に努めた。<br>○全国学調やＣＲＴの結果が示すように，学年が進むにつれ、基礎的・基本的な力が定着している。<br>●さらに基礎的・基本的な力の定着を図っていきたい。<br>●家庭学習の定着に向けた取り組みを学校全体で実施したい。<br>＜授業の工夫・改善＞<br>○「問題解決能力向上（四日市モデル）」を研修の中心に据え、各教師が授業改善を行うことができ、全体的な教科指導力の向上が図られている。<br>○それぞれの教科では新しい学力観に向けて授業の工夫・改善を行っている。<br>●生徒が気付きや理解を深める場面を明確に設定した授業を確立していきたい。<br>●全体研に向けての授業改善を日々の授業に反映させていきたい。<br>＜コミュニケーション能力の育成＞<br>○個の特性を活かせるグルーピングを考案し、話し合い活動に反映することができた。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | いのちを尊重する教育の創造…徳・体 | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ＜道徳・人権教育の充実＞<br>○学校ビジョンに基づいた各学年の学活・総合・道徳の授業を展開することができた。<br>○本年度も「いのちを尊重する教育」の教育計画にしたがって教育活動を進めることができた。<br>○道徳・人権教育の授業を通して、生徒の考えていること、人権意識を確認することができた。<br>●道徳について、人権学習とは別に１年間を見通した計画のもとで各徳目を網羅できる体制を作り、評価につなげる取り組みが必要である。<br>●各学年の道徳・人権学習の取り組みや様子が把握できるように、各学年の取り組みや生徒の様子がわかる体制をとっていきたい。<br>＜生き方を探るキャリア教育＞<br>○職場体験学習での生徒の体験は　将来の自分の生き方を考えるだけでなく、今の中学校生活をどう生きていくかを考えさせることにもつながった。<br>＜性教育や食育等に関する学習の充実＞<br>○各学年ごとに外部の講師を招いての食育を実施し、食に対する興味関心を持たせ、自分の食生活と健康について考えさせることができた。<br>＜豊かな人間性の育成＞<br>○総合的な学習や学級活動，生徒会活動などの日々の活動の中にも道徳教育・人権教育を取り入れ，充実した取り組みができている。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 特別支援教育の充実 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ＜校内支援体制の確立＞<br>○教師全員が特別支援学級の生徒と関わり、状況を把握することができた。<br>○要支援生徒への合理的配慮を話し合えたことがよかった。<br>○教員が個々の生徒の特性を把握しており、職員間での情報の共有ができていた。<br>○交流授業での周りの生徒との関わりや様子は伺い知ることができ、また、特別支援学級での活動の様子や取り組みを回覧のファイルや先生方との会話の中から伺うことができた。<br>○校内特別支援委員会を実施し、生徒の様子を交流するとともに、回覧で生徒の様子について情報を共有することができている。<br>●支援ファイルや学校独自の支援シートの作成や活用の充実を図りたい。<br>●その他の支援を必要とする生徒への支援方法を探っていく必要がある。<br>●通常学級籍の要支援生徒への、支援体制を充実させていきたい。<br>●特別支援委員会で話し合われた個々の生徒に対する配慮事項について、迅速に共有できるようにしたい。<br>＜個に応じた教育の実践＞<br>○通常学級籍の生徒に対する支援を実施することができた。今後も支援体制の充実を進めていきたい。<br>●個々の生徒にあった支援をそれぞれで行ってはいるが、支援の記録や情報交換が全体で共有できるように、支援計画や独自の支援シートの活用を勧めていきたい。 | |

| 重点目標４ | 教師力の向上 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜校内研修の充実＞<br>〇四日市モデル研修と学びの一体化における研究主題を軸に、充実した研修を行うことができた。若手教員が進んで校内授業研究を行い，それに向けての準備でたくさんの教師が関わり，学ぶことも多かった。<br>〇四日市モデルへの意識が教員間に浸透してきており、各教員の授業に対する自己研鑽の意識が高まっている。<br>●研修内容が四日市モデルに限定されない体制が必要である。<br>＜保幼小中学校学びの一体化＞<br>〇学校規模の縮小にともなって取り組みを精査していくことで本年度も充実した取り組みになっている。<br>〇具体的な家庭学習の内容や指導方法等を話し合うことができ、小から中へのギャップ軽減に努めることができている。<br>＜教育活動の創意・工夫＞<br>〇ＩＣＴ機器のリニューアルに伴い、ＩＣＴの活用が進んだ。<br>〇各教科では新しい学力観に向けて授業の創意・工夫を行った。県外研修の機会があり、自分の授業を振り返り、さらに授業改善を行うことができている。<br>●各教科、ほとんど一人で全学年を担当することで、相談する人がいないことやフィードバックする機会がないところがある。 | |

| 重点目標５ | 地域の信頼に応える | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜学校自己評価・学校関係者評価の実施＞<br>●学校評価アンケートの項目について検討を行った。さらにわかりやすく見直しを進めたい。<br>＜情報の発信・受信＞<br>〇情報の発信や地域との連携については，ホームページや学校通信を使っての情報発信をすることができた。<br>●学校ＨＰはスマホからも投稿可能である。特に中体連の様子などをタイムリーにアップしていきたい。<br>●情報発信はしているが、なかなか保護者に伝わっていかない。<br>＜地域との連携＞<br>〇地域と連携した取り組みは様々な場面で行うことができ、積極的に進められている。<br>〇学校行事に対して、地域・保護者の参加が多く、必要に応じた協力も得られている。<br>〇「ＨＵＧ」や「鈴鹿川クリーン作戦」など地域と連携した取り組みを行い，充実したものになっている。<br>〇生徒の挨拶について地域の評価も高い。地域の方が生徒を見守ってくださっていることに感謝し、我々教職員も挨拶や交流を大切にしていきたい。<br>＜学習環境設備の推進＞<br>〇今後も、日常的な施設・設備の点検を行っていく。 | |

２　改善方針

| |
|---|
| ●教職員数が少ない分、一人ひとり（あるいは各委員会）が校務・議題に対して全体共有されることなく過ぎていくことが多いように思われる。一人ひとりの意識と、情報共有をしやすい環境づくりをさらに進めていく必要がある。<br>●道徳の教科化に向け、学活・総合・道徳それぞれの位置づけを明確にしていく。 |

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　山手中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 学力の向上と指導の充実(知) | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 〇主な方策と成果<br>・「キャリア教育」を中心にして「生徒同士が関わり合い、学び合いのある授業の創造」や「授業づくり、授業改善」に取り組んだ。<br>・「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック活用推進協力校事業」の委託を受けて、大学の教授や指導主事を何度も招聘し、授業研究会や授業づくりの研修を深めてきた。<br>・「総合的な学習の時間の取組」や「１年生福祉体験教室」「２年生防災教室」「２年生安全安心教室」「３年生薬物乱用防止教室」など多くの地域の方に学校に来ていただき、生徒に直接指導する機会も多く取り入れてきた。<br><br>　このような取り組みを行ってきたことにより、保護者からの評価が3.1、生徒からの評価が3.3という、高い評価を得られた。今後も、さらに内容を深め、充実させていきたいと考える。<br>　また、「朝の読書の有効性」については、生徒からは「読書」に対して前向きで好意的な意見・要望が寄せられている。今後も司書と連携しつつ図書室の充実を図るとともに、読書指導の充実に努めていきたいと考える。<br><br>〇課題<br>・保護者アンケートにおいて、「わかる授業」と「適切な評価」が3.1ポイントを下回ったため、保護者から寄せられた意見を中心に、多くの点でまだまだ改善の余地のあることを認識し、同時に、今後とも教職員一人一人が研鑽を積み、「授業改善」も含め、工夫・改善に取り組むことを全教職員で確認した。<br>・校舎が古いため、ＩＣＴを十分に使える環境にない。<br>・家庭学習の充実がなかなか進まない。家庭学習の大切さを生徒及び保護者に伝えるなど、家庭との連携を図っていきたい。 | |

| 重点目標２ | 心の教育の推進(徳) | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 〇主な方策と成果<br>　「充実した学校生活」「教育相談等、生徒との関わり」については、生徒からは3.4、保護者からは3.2と高い評価を得ている。挨拶や言葉遣いについては、機会をとらえ、その重要性を説いている。校長も朝から昇降口付近で生徒を出迎え、生徒も元気な挨拶を交わしており、また、廊下ですれ違う時にも、教員と生徒、また生徒同士でも元気に挨拶を交わしている。「挨拶」から始まって、生徒と教師のコミュニケーションが増えていていることも、この結果につながっていると考えられる。<br>　「生徒指導上の問題への対応」については、昨年度と変わらず、生徒3.3、「教育相談等，生徒との関わり」については、生徒・教職員とも3.4と高い値となった。これは、休み時間も廊下等で教職員が生徒の様子を常に見守りながら、生徒とのふれあいを大切にしようとしていることや、学期に１回の「教育相談期間」で、生徒の悩みや気になっていることを探り出す機会が確保されていることが功を奏していると考えられる。今後も引き続き、教育相談の方法やＱＵ調査等の研修も深めながら、生徒の内面に迫れるように努力を続けていく必要がある。また、校内で何かしらの問題行動が起きた時には、できるだけ早く複数の教員で対応するように心がけ、昨年度より引き続き、個人的な情報に留意しながら、全校生徒にできるだけ正しい情報を発信し、どう行動すべきかを考えさせ、規範意識の向上を目指してきている。こういった取組の積み重ねがこの結果に繋がっているのではないかと推測する。今後も継続し、生徒指導や生徒支援のレベルアップにつなげていきたい。<br><br>〇課題<br>・部活動については、「部活動の時間を長くしてほしい」との要望もあるが、少しずつ縮減の方向で考えざるを得ない状況であることを生徒・保護者に理解してもらいつつ、部活動での練習等の取組の質を落とさず、短い時間の中で充実した活動ができるよう、努力すべきと考える。<br>・「教育相談等、生徒との関わり」については、教職員と保護者の評価の差が0.3ポイントあることから、保護者との連絡・相談等の連携をさらに強化していく必要がある。<br>・道徳・人権教育については生徒の実態に即した内容での年間計画を、全体で検証しながら作成し、学活・総合的な学習の時間と共に系統的・計画的に進めていく必要がある。<br>・スクールカウンセラーの利用を希望する人数が増えてきており、カウンセリングの時期が遅くなってしまう(適切な時期をのがしてしまう)ことがある。 | |

| 重点目標３ | 健康・安全教育の徹底(体) | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 〇主な方策と成果<br>　生徒からの評価が3.5と大変高い値となっているが、これについては、「時間を守る」「授業を大切にする」「提出物を出す」「掃除にきちんと取り組む」などの基本的な生活習慣の確立はもちろんのこと、体育科や家庭科の授業内容、さらには、部活動やＰＴＡ行事も大いに関わっているものと考えられる。<br><br>〇課題<br>・交通安全の面では、ルール違反は大きく減ってきてはいるものの、登下校中の自転車の事故は年間に１０件ほどあった。各学級での指導だけでなく、地区別に集会を持ち、具体的な注意も行うなどの指導の充実と共に、今後も引き続き、阿倉川交番や四日市北警察署とも連携を取りながら、安全対策を進めていく必要がある。さらに、生徒一人ひとりが「安全への意識」をしっかり持てるように、各家庭においても、交通安全について話し合う機会を持っていただくよう、協力を強化してもらう必要がある。<br>・基本的な生活習慣が確立できていない生徒も多く、保護者の方と協力し、家庭との連携を深めていく必要がある。<br>・年間を通じて、各教育活動や行事を関連付け、ＱＵ調査の結果をいかしながら、学級や集団としての高まりを図るための継続的な取組をさらに進める必要がある。 | |

| 重点目標４ | 地域とともにある学校づくり | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 〇主な方策と成果<br>　「保護者や地域の人たちとの連携」の項目も、生徒3.2、保護者3.1と昨年に引き続き、高い値であった。様々なＰＴＡ行事やクリーン大作戦など地域の方とともに行う行事は、生徒の情操教育という面だけでなく、将来的な地域への誇り、地元愛につながるものであり、これらの行事を山手中学校の強みの１つと考える。そこで、今後も行事の意味や経緯を伝えつつ、また、土曜授業や土曜活動との関連も考えながら、時代の流れにあった内容や方法等を探っていきたい。<br>　昨年度より学校ホームページや通信でのお知らせや話題提供をたくさん行ってきた。特にＨＰについては、アクセス数が増えており、多くの方に見ていただいており、同時にＨＰに対しての要望や意見も増えてきた。今後もＨＰや通信をさらに充実させ、生徒の活動の様子や学校の取組を発信しながら、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。<br>　「情報受信の努力」についても0.1ポイント下がったが、学校としては、家庭訪問や電話連絡等で保護者との情報交換や連絡・連携をさらに密に図り、保護者からの気になることや心配なことなど、遠慮なく連絡・相談等をしてもらえるよう努力を続ける必要がある。<br><br>〇課題<br>　ＰＴＡ・地域との協働の活動は多く、これらの活動がこれまでの本校の教育活動の充実にとって果たしてきた役割は大きい。しかし、保護者や教員の負担という面を考えると、それぞれの活動の「成果と課題」を再検証し、残すもの・変更するものを整理し見直す時期にきているのではないか。 | |

| 重点目標５ | 教師の専門性と資質の向上 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 〇主な方策と成果<br>・「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック活用推進協力校事業」の委託を受けて、大学の教授や指導主事を何度も招聘し、授業研究会や授業づくりの研修を深めてきた。<br>・日常的にも「５つのプロセス」や「学び合い」等を取り入れた授業づくりに取り組んだ。<br>・「授業公開週間」を設け、各自が授業を見てもらい、お互いのアドバイスを行いあう研修スタイルを続けてきた。<br><br>　これらの取組から、生徒からの「わかる授業」のポイントは高い評価を得ている。また、その成果は全国学力・学習状況調査の結果にも出ていると考えられる。<br><br>〇課題<br>・生徒指導の面においても教科指導の面でも、数多い若手教員の指導力の育成がを行う必要がある。<br>・「勤務時間の縮減」も視野に入れながら、研修会や諸会議等の中味の精選と充実を目指す必要がある。そのためには、各自・各分掌等での仕事の分担や取り組み内容等について効果を落とさないよう、熟考していく必要がある。 | |

２　改善方針

・各自のそれぞれの教育活動への取組内容の充実・向上を図るための校内研修の継続・改善を図る。
・教員同士のコミュニケーションや報告、連絡、相談を充実させ、学年内や分掌内において「勤務内容・仕事量・勤務時間のあり方」をしっかり考え、実行に移す必要がある。
・部活動の縮減や交通安全意識等、保護者の理解を得なければならない項目について、通信やＨＰだけではなく、懇談や家庭訪問等において、さらに保護者との連携を深めながら取り組む。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　富洲原中　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 聴き合い、学び合う関わりを大切にし、一人ひとりの生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業をつくります。<br>＜学びの協働体づくり、学び合う授業づくり＞<br>教師の授業力の向上と生徒の学力向上、学びの一体化の充実 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 【主な方策】<br>○　研修会を充実させ、教師の授業力の向上を図ります。<br>○　中学校区「学びの一体化」の取り組みの充実を図ります。<br>○　少人数教育、ティームティーチングを充実させ、生徒の学習意欲とともに学力の向上を図ります。<br><br>・授業づくりに関して、「ねらい」「ふりかえり」の視点に、今年度「四日市モデル」の視点を加え、プロセス２とプロセス５について議論する場を設けることができた。<br>・校内アンケートでは、生徒・保護者とも「わかりやすい授業であるか」の問いに９割が満足と解答しており、「聴きあったり、教えあったりしているか」の問いの満足度も上昇している。今後も小グループやコの字隊形の活用に加え、ICT機器やホワイトボード等の活用法についても校内で研修を深めていく。<br>・年間を通じて行った乗り入れ授業の中で、小中の意見交流や生徒の情報共有、来年度に向けての改善案の相談をすることができた。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い、気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育てます。<br>＜ケアリング、仲間づくり＞<br>信頼関係の構築、自尊心、自己有用感の育成、心の豊かさの向上 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 【主な方策】<br>○　全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図ります。<br>○　温かみのある生徒指導に取り組み、問題行動の予防を図ります。<br>○　自分を大切にし、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験的活動の充実を図ります。<br>○　生徒会活動を通して、気持ちを理解し合える人間関係を育みます。<br><br>・毎朝、生徒昇降口に職員が立ち、挨拶を通じて生徒の様子を確認する取り組みを行った。<br>・校内アンケートでは、生徒・保護者とも「人権教育について満足している」と答えた割合が９割程度であった。ゲストティーチャーを招いての講演会など、様々な立場の人たちから生の声を聴かせてもらうことで、子どもたちが考える機会とすることができた。<br>また、集会や学級でコの字隊形を導入して、お互いの顔を見ながらの意見交流を行っており、子どもどうしをつなぐ一助となっている。<br>・ホット情報で各学年の情報を共有し、不登校生徒への声掛け・初期対応も全職員が柔軟に行っている。<br>・担任や学年担当，部活担当など多方向から生徒の頑張っている面を捉えて、プラスの声掛けを行っている<br>・各学年で総合的な学習の時間等を活用し、人権教育をはじめ様々な取り組みを行っているが、学年間のつながりが弱く、さらに３年間を見通した効果的なものとしていく必要がある。<br>⇒研修委員会等で、各学年の取り組みを交流し、互いの学年を参観できるように試みた。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 学校内外で開かれた教育活動に取り組みます。<br>＜開かれた学校づくり＞<br>生徒・保護者・学校の相互理解 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>〇　学校の教育活動を、いつでも誰にでも公開します。<br>〇　地域(人材、歴史、文化、産業等)を学習の舞台として活用します。<br>〇　生徒会活動の活性化を図り、自主活動、体験的活動を支援し充実させます。<br>〇　部活動を通して、人間形成を図ります。<br><br>・避難訓練や炊き出し訓練、防災行事等、地域とともに防災について学ぶ機会を多く持つことができている。<br>・仙台・熊本の被災者の方を招き、小学校６年生と全校生徒で集会を行い、防災について学習を共有することができた。また、人権学習の一環として、集会後に身近な防災について話し合うなど、小中連携を意識した防災教育の充実へとつなげられた。<br>・タイムリーなHPの更新や通信の発行を心がけることができた。保護者アンケートの結果も昨年に引き続き満足度が高くなっている。<br>・部活内の方針や目標、問題について話し合う機会として、週に一度のミーティングデーを設定することができた。休養日の確保や環境整備の時間としても活用できている。 | |

２　改善方針

・今後も継続して、授業における「ねらい」と「ふりかえり」について職員同士が議論する場を研修会で設定し、「四日市モデル」の研修もさらに進めていく。
・ペア座席、小グループ、コの字隊形などを今後も活用しつつ、ICT機器や教具を用いるなど、より効果的な活用方法について研究授業等で模索していく。
・小中相互のメリットとなるような乗り入れ授業の形を検討していく。小学校から中学校への補充学習への参加等、新たな取り組みも進めていく。
・今後も継続して、朝の挨拶を全職員で行っていく。
・人権集会等全校で行う学習を３年周期で考え、３年間の見通しを持った効果的な取り組みを考えていく。
・今後も地域とともに行う防災活動に積極的に参加していく。また、防災学習として、総合的な学習の時間や人権集会とつなげ、より効果的な学習の場となるようにする。
・部活動について、十分な休養日を確保するとともに、生徒の自立を促す学習の場としてミーティングデーを活用していく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　富田中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | （基盤）教職員の資質・能力の向上 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ①　個人及び全体研修方式による授業研究・文章チームによる実施計画立案・自己評価の実施<br>　昨年度からの継続であり、教師用・生徒用アンケートを行わなかったので、適切な目標かどうかの自己評価が若干低くなったと思われる。<br>　一方、「自分化宣言」の取組を継続的に行い、全員分の宣言を一覧した冊子を配付し「授業を見あう月間」でふりかえる取組を継続している。この取組で正確な自己分析とそれを基に適切な目標設定をし直すことができる環境を整えている。また、本年度は公開授業に対する目的意識がやや低かったが、昨年度までに「めあて」「ふりかえり」「教卓の移動」「学習ノートをつくる活動」等これまでに積み上げてきた指導に実践を積み重ねる実感は、授業づくりの中であったと推測する。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 生きる力の向上 | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | **１　知（確かな学力）の向上**<br>①　一人一人の学びの保証の取組<br>　一方的な講義型ではなく、ていねいにわかりやすく工夫していることによって、聴く力を基盤に、生徒が主体となった『学び合い』の授業になるよう取り組んできた.<br><br>②　授業における表現力と活用力を高める取組・組織的な学力底上げの取組・特別支援教育の充実<br>　各教科の分析の結果とてだてを全職員で共通理解を図り、各教科の授業を工夫し、改善できている。また、校区内で書く力を伸ばす取組を行っているが、各教科の小領域によっては低い評価が表れているところもあり、十分な分析を行う必要がある。<br>　また、特別支援教育においては、対象生徒の情報や支援の方策を全職員で共有し、校内委員会を中心に、進路を見据えた通常学級生徒の個別支援などにも取り組んだ。来年度の新入生については計画的に観察や保護者面談を行い、小学校と連携を図りながらスムーズな接続を図っている。<br><br>③　図書室・学級図書の充実・学年通信での本の紹介・家庭への啓発<br>「読書が好き」な生徒は多く、引き続き、朝の読書やブックトーク、通信などでの読書紹介、読書記録の記入や多読賞の表彰に取り組んでいきたい。<br><br>**２　徳（豊かな人間性）の向上**<br>①　生活規律の指導・学習マナーの指導<br>　大半の生徒が自発的にルールを守り、落ちついた学校生活を送っている。<br><br>②　学級活動・道徳教育の充実・人権弁論大会を核とする人権教育の充実<br>　わずかでも加害者肯定の意識を持つ生徒がいる現状を重くとらえ、意識を変える取組を実施し、「いじめをしない、いじめを止める、いじめられても黙っていない、いじめは嫌いだ」という価値観を持ち、日常生活における道徳観の向上を目指すための取組を継続していきたい。よりよい人間関係を築くためにも、「優しい気持ち」「助け合おうとする気持ち」を道徳教育や人権教育を中心に、教育活動全体で育む指導を充実させたい。<br><br>③　職業体験学習・進路学習を核とするキャリア教育の充実・学校行事の充実<br>「自分を大切に思うこと」と「他人を大切に思うこと」は、人権意識の原点であると考え、「いいところ見つけ」や「みんなへのメッセージ」をはじめとして、各教科の授業や学級活動・生徒会活動・委員会活動・部活動など、日常の教育活動の中で、生徒一人ひとりが、「自尊感情」を高める取組を行った。<br><br>**３　体（健康な体と心）の向上**<br>①　保健体育の授業の充実・スクールカウンセラーとの連携・心の安全のための情報発信<br>　リズム運動にしっかり取り組ませること、補強運動や10分間走に授業のはじめに取り組ませるなど、体育の時間の運動量を確保する工夫をした。<br>　３年生の不登校生徒が多い。遅刻に関しては、不登校生徒が登校できた時など生徒は限定されており、非行等で遅刻してくる生徒はいない。また、SCなど様々な関係機関と密に連携を図っているが、家庭に協力を得ながら、担任を始め教員による粘り強い支援が必要であると考えられる。今年度もSCが毎週生徒指導委員会に参加し、面談や授業での生徒観察について情報交換することができた。<br><br>②　健康に関する啓発活動・生活リズム向上推進<br>　半分以上の生徒が主菜＋主食＋副菜または主菜＋主食がとれており栄養バランスがとれている。今年度は食育講座を行えなかったので今後実施していきたい。また、睡眠時間は7時間台と答えた生徒が多かった。塾や習い事のある生徒は、毎日８時間の睡眠をとるのは難しい現状にある。10月に自分の生活を振り返り、睡眠時間を見直す取組をした。（期間は富田小学校とあわせて行った。） | |

| 重点目標３ | 開かれた学校 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ①　授業公開週間の実施・行事等の公開・通信の発行・お知らせボードの更新<br>　どの行事も割と天候に恵まれ、来場者数は昨年を上回り、生徒は精一杯の頑張りを見せていた。それが保護者や地域の方々に伝わり、高い満足度につながっているものと思われる。懇談会の開始時間の変更も、保護者の時間の都合のつけ方に、わずかでもプラスに働いているものと推測する。一方、平日の授業公開週間の来校者を増やす具体的な手立てを打ち出していく必要がある。<br>　また、管理職を中心に日々ホームページを更新し、最新の情報を提供していること。学校だより・学年通信・進路通信を定期的に発行し、教育活動の様子を保護者・関係者にタイムリーに伝えられた。<br><br>②　学習習慣の確立・授業への学習支援ボランティアの参画・読書週間の確立・健康な生活習慣の確立<br>　図書館支援、和楽器(筝)の学習支援に継続して取り組んでいただいた。職場体験学習においては、地域の多くの事業所の協力をいただく事ができた。防災訓練では、四日市消防団富田分団の方の指導のもと、救急救命講習と巨大地震に対しての対応方法に関する内容を学んだ。ＰＴＡ奉仕作業では、保護者・生徒・地域の方々が一体となって学校の環境整備に協力できた。炊き出し訓練も昨年に引き続き行われた。グラウンドゴルフでも多くの生徒が地域の方々と交流できた。また、吹奏楽部の地域行事への出張演奏も複数回実施など、地域との連携が順調に進んでいる。 |

| 重点目標４ | 安心・安全な学習環境 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ①　各種危機管理マニュアルの整備と徹底・対応後のフィードバック<br>　津波が発生した時の対策を練っており、今年度も校舎内に避難するとともに、避難所開設のために、生徒自身の役割を知らせていく訓練を行った。次年度以降も全職員が自分のすべきことを把握し、生徒に的確な指示が出せるように準備しておく必要がある。<br><br>②　整理整頓・安全点検の日常化<br>　校舎等に不備がないか細かく確認し、修繕している。また、今年度は監査が実施されたため、整理整頓・施設設備の点検が徹底された。<br><br>③　避難訓練の実施・防災教室の実施・非行防止教室の実施・交通安全指導<br>　避難訓練では計画に基づき生徒に指導をし、安全かつ迅速に避難をさせることができた。今以上に、実際に災害が起きたときのような危機感を持たせながら訓練を行う必要がある。また、部活動・授業中のけがの発生件数は、昨年度より少なくなった。しかし、年々生徒の落ち着きがなくなっていると考えられる。生徒が落ち着いた学校生活を送り、安全意識が高まるような指導が必要である。 |

２　改善方針

**【基盤　教職員の資質・能力向上のために】**
　正確な自己分析とそれを基に適切な目標を設定し、自己研鑽に取り組む。管理職による面談も適切に入れていく。また、教職員間で研修講座の内容を交流し、教育活動に活用していく。
**【重点１　生きる力の向上のために】**
**知（確かな学力）の向上について**
　ＣＲＴからＮＲＴへの変更、全国学力状況調査の内容変更の状況に対応できるよう研修をすすめる。また、家庭学習の確立のための「富中タイム」の内容について検討していく。
**徳（豊かな人間性）の向上について**
　校内生徒指導委員会及び生活委員会や学びの一体化「生指部会」と連携し、基本的生活習慣の定着を目指す。また、身近に起こりうる人権問題を取り上げた道徳授業を実施する。「自分を大切に思うこと」「他人を大切に思うこと」を念頭に置き、日常の教育活動の中で生徒一人一人が「自尊感情」が高められる取組を行い、ＱＵ調査の結果をいかして学級づくり、仲間づくりに取り組む。
**体（健康な心と体）の向上について**
　来年度もＳＣに生徒指導委員会に参加してもらい、生徒の実態把握や情報交換を行い、生徒の心の安定につなげたい。また、不登校傾向にある生徒にある生徒へは、家庭の協力を得ながら、仲間づくりと並行して担任を中心に生徒への粘り強い支援を行っていく。
**【重点２　開かれた学校について】**
　地域行事へのより積極的な参加を促したり、保護者や地域との交流・意見交換の場の設定を進め、地域に開かれた学校を目指す。また、学校ホームページや通信などを活用し、教育活動の進捗状況や生徒の様子を積極的に発信することで、保護者の理解を深め、充実した教育活動につなげる。
**【重点３　安全・安心な学習環境について】**
　避難所開設のために生徒一人一人がするべき役割について再確認させていくと同時に、現状に合わせて防災マニュアルの見直しをしていく。
　部活動や授業時は指導者がより安全に留意し活動させるとともに、生徒が落ち着いて学校生活を送れるように、全職員で安全に対する意識を高めるように指導していく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　笹川中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 基本的な生活習慣の確立 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | （主な方策）<br>①基本的な生活習慣の確立<br>②社会規範や集団生活のルールの育成<br>③日常活動での指導の充実と非行や問題行動への適切な対応<br>（成果）<br>・「笹ルール」の提示と徹底により学習規律は確立されている。また、朝のあいさつ運動や交通安全指導も生徒会やPTAを中心とした取り組みになっており、地域住民との交流にもなっている。<br>・健康集会を開催し、生徒がやり遂げたという充足感を持たせることができた。<br>（課題）<br>・生徒・保護者との心のつながりをさらに強化し、温かみを持った生徒指導を心がけていくことが必要。<br>・校外活動を通して、生徒の態度等での批判は少ない反面、応援の言葉がけも限られている。学校内だけでなく地域への働きかけも取り入れることを考えていく必要がある。<br>・新校舎、運動場利用に関しての新たなルール作り。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 確かな学力の向上 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | （主な方策）<br>①授業の充実、適切な評価の実施と説明<br>②学力補充<br>③学びの一体化の推進<br>（成果）<br>・すべての教科でＩＣＴ機器導入した授業を行うことができた。<br>・基礎学力の定着のための取り組みも着々と進み、ベーシック学習の効果を実感できるようになっている。<br>・少人数授業、ＴＴ、ペア学習、グループ学習等の指導形態・学習形態を取り入れることにより、学力の向上を図ることができた。<br>・土曜日を活用したテストのための補充学習の実施。<br>・「みとおす」→「つながる」→「ふりかえる」を四日市モデルとリンクさせることで、指導の幅を広げることに結び付いた。<br>（課題）<br>・ＩＣＴの活用場面と活用の仕方をさらに追及していくことが必要である。<br>・四日市モデルをさらに定着させていくこと。<br>・学びの一体化における乗り入れ授業の充実を図り、小中間の連携を今後も継続して深めていく。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 心を育てる教育の充実 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | （主な方策）<br>①計画的な道徳･人権教育の充実<br>②心や命を大切にする教育の推進、不登校生徒支援の充実<br>③仲間づくりの充実<br>（成果）<br>・体験活動や交流学習の場を利用し、効果的な仲間づくりを推進している。<br>・教育相談を年間を通して行い、ＱＵ調査等の資料も活用し計画的に実践している。また週１度スクールカウンセラーも会議に同席してもらうことで、これまで以上に情報共有することができた。<br>・本校の伝統ともいえる、西日野にじ学園との交流を行うことで、生徒の内にある課題を再確認することができた。<br>・本年度の人権講演会は中倉氏を招いて行ったが、生徒にとっても理解しやすい講演であった。<br>（課題）<br>・道徳教育、人権教育については、道徳が教科化されるため、授業研究等の研修を進めることが必要。<br>・仲間づくりを日常的に仕掛けていくことが必要であり、授業の中でも学び合いを中心とした取り組みを行っていく。また、「命を大切にする教育」についてもさらに充実させていきたい。 | |

| 重点目標４ | 教師の意識改革 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | （主な方策）<br>①全教職員の共通理解と協働歩調の徹底<br>②一人ひとりを大切にする指導<br>③プロの指導者としての自覚と自己研鑽の推進<br><br>（成果）<br>・「報告・連絡・相談」による早期の情報の共有が身についてきた。<br>・授業の面においても、研修を繰り返すことで、個々の授業力向上につながった。<br>・少しずつではあるものの勤務時間について考える職員が増え、「教師の働き方改革」に一歩踏み込むことができた。<br>（課題）<br>・経験豊かなベテラン教職員の退職に伴い本校教職員の平均年齢も若返りつつある。今後もこの傾向は続くため、今日的な教育課題に対応できる人材の計画的な育成とベテラン教職員の持つ教育指導に関するノウハウの継承等が急務である。<br>・教職員が学校組織の一員としてさらに考え行動し、新たな人事評価を評価の場として捉えるのではなく、改善の場として捉えることができるようになる。 | |

| 重点目標５ | 学校・家庭・地域で育てる教育の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | （主な方策）<br>①開かれた学校づくりの推進<br>②保護者・地域との連携の強化<br>③学校づくり協力者会議を開催し、学校関係者評価を実施し地域からの意見を取り上げながら教育計画の検討を行う。<br>（成果）<br>・予定された授業公開、学年懇談会等を通して多くの保護者に来校してもらえた。土曜授業も含め、保護者の関心を集め、開かれた学校づくりには大きな効果が得られた。<br>・学校だより・ホームページの作成・学級だより等でリアルタイムな情報発信に留意し、その都度情報を発信することができた。<br>（課題）<br>・開かれた学校づくりのための教職員の意識の変革がさらに必要である。学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくこと。<br>・提供されるばかりではなく、学校も職員も資源の一つとして、地域に貢献できる機会を大切にしていくことが必要。 | |

２　改善方針

次年度は教育実践研究推進校区指定の２年次ということで、ビジョンの最重要項目に「確かな学力の向上」を掲げている。これまで以上に、授業の充実のための指導法の改善や四日市モデルの定着に取り組んでいきたい。
・学校づくりビジョンへ職員の意見を反映し、それぞれが学校経営に参画しているといった意識を持った上で、策定に臨みたい。また、学校づくり協力者会議への学校づくりビジョンの周知を徹底して、重点目標について個々の取り組みを強化し、職場全体へのさらなる広がりを持たせたい。さらには四日市版コミュニティスクールへの移行も視野に入れていきたい。
・見えてきた強みと弱みについて教職員が理解し、「継続する部分」「改善しなければならないところ」「伸長させたいところ」を明確にしたうえで取り組んでいく。
・「学びの一体化」における校区内の連携をさらに深めながら、、中学校区の教職員全員が責任をもって校区内のすべての児童生徒への指導に当たることの再確認を図る。
・特別支援教育の更なる充実と教育的な配慮を必要とする生徒の洗い出しを行い、一人ひとりに視点を当てた教育活動の充実を図る。また、関係諸機関との連携やＳＣ，ＳＳＷを最大限に活用し生徒の教育活動に当たりたい。
・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己肯定感・有用感、自尊感情の高揚、生徒と教師の共感性を大切にし、自己実現を目指す取り組みを図る。
・リアルタイムな情報発信を今後も継続していく。
・保護者、地域との連携を強化し、教職員の意識改革を同時に行いながら、更なる開かれた学校づくりに努めたい。

【様式１】

# 自 己 評 価 書

四日市市立　　南中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 学力の定着と充実 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○基礎基本の定着と問題解決能力の向上、コミュニケーション能力の育成<br>○学習習慣の確立（授業規律・家庭学習等）<br>○全国学力学習状況調査やＮＲＴ・ＣＲＴの分析と活用の工夫<br>○わかる授業、楽しい授業づくり、学習意欲を育むＩＣＴを活用した教育の充実<br>○特別支援教育の充実、進路学習・補充学習の計画的な実施と定着<br>○小集団活動を活用した学びあう授業の展開、適切な評価の実施と充実<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>基礎・基本の定着を目指し補充学習を行い、授業でＩＣＴやマグネットシートを活用した学び合いによって問題解決能力、コミュニケーション力の育成を図った結果、肯定的な評価は生徒９４％、保護者９５％であった。年度当初にシラバスの明示、三者懇談での各教科担当からのコメント伝達により、適切な評価に関して肯定的な評価は生徒９２％、保護者９６％であった。進路指導に関して肯定的な評価が、生徒７７％、保護者９１％で、不安を抱いている生徒が２３％と大変多いため、「生きる力」につながるキャリア教育の視点から計画的な進路指導を充実させ、生徒自らが進路選択できるようにする。不登校生徒については個々に応じた指導を行い、外部機関とも連携して一人ひとりの進路を保障していく。十分な教材研究、授業評価を確実に行い、「わかる授業」を展開する。全国学調で、家庭学習の充実が毎年本校の課題であるので、宿題の出し方等を工夫して指導する。 | |

| 重点目標２ | 心の教育の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○生命や心を大切にし、自尊感情を育む人権・同和教育の工夫と実践<br>○体験活動等を取り入れた全領域での道徳教育の充実<br>○いじめ・差別等を許さない仲間づくり、Ｑ-Ｕ等を活用した学級集団づくりの推進<br>○毎日の生活の振り返りと改善、読書活動の活性化と充実<br>○発達段階に応じたキャリア教育の推進、体験活動の充実、多文化共生教育の充実<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>教師が業間も生徒のフロアに残り人間関係を構築することや、学期ごとの教育相談で生徒の悩みや思いを知ることにより、いじめやトラブルの未然防止につながった。外国人、障がい者、子どもや女性の人権、そして部落問題に重点を置いて３年間を見通した人権学習を行い心を育てることができた結果、心の教育の充実を感じる生徒は９２％、保護者９６％、教師９４％となった。いじめ・差別に関して対応を素早く行い、生徒や保護者に安心感を持ってもらえたため、生徒９０％、教師９７％、保護者９３％が肯定的な評価となった。しかし教師と生徒の認識のずれが７％もあり、アンテナをさらに高くし一人ひとりの心の声に耳を傾け続ける必要がある。 | |

| 重点目標３ | 健康・安全教育の徹底 | 4 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○基本的生活習慣の定着と推進、生徒会及び各委員会活動の活性化と充実<br>○清掃活動や部活動、心をつなぐ教育相談、不登校生徒への支援の充実<br>○危機管理の徹底と緊急避難訓練の実施、施設、設備、器具の定期点検<br>○防災・交通安全教室の開催と充実、通学路、通学区域の安全点検と改善<br>○体力向上を図る取り組みや食育、学校保険の充実<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>先生は親身になって接してくれると感じている生徒が９２％なので、何らかの不安がある８％の生徒も含め、全員が毎日楽しく過ごすことができる学校生活を目指す。<br>挨拶を重視して指導し、ＰＴＡや生徒会でも挨拶運動を行ってきた結果、挨拶の実施に関する肯定的な評価は生徒８６％、保護者９５％となった。どんな場面でも生徒一人ひとりが自主的に挨拶できるように、さらに教育活動を継続していく。<br>本校の部活動について、生徒９２％、保護者９３%が肯定的な評価であったが、８％の生徒の意欲向上と前向きな活動に向けての取り組みが必要である。 | |

| 重点目標４ | 学校教育力の向上 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | 〇学校づくりビジョンの実践、反省の具現化、学校自己評価の考察と課題の克服<br>〇全職員の意思統一と各分掌の活性化・連携、健康で意欲的に働ける職場づくり<br>〇保幼小中高での学びの一体化、全教員の授業公開実施、ＩＣＴ活用<br>〇各種研修会等への積極的な参加推進と還流、教師力の向上、日常的なＯＪＴ<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>　本校の教育活動について、９５％の保護者が満足できる状態だと回答している。しかし、生徒の１０％が、学校が楽しくないと感じている。生徒が授業に前向きに取り組むことができるように研修を重ね、授業改善し、指導力向上が必要である。また、教育相談をさらに充実し、保護者やSC、外部機関とも連携することで、生徒が楽しくないと感じる要因を把握し、教職員が組織的に対応して学校教育力の向上を図る。 | |

| 重点目標５ | 地域・家庭・保護者との信頼関係の確立 | 4 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | 〇学校公開・授業参観及びフリー参観等の実施、学校行事の充実と参加協力<br>〇地域・保護者等の要望意見の情報収集と改善、学校づくり協力者会議等との連携<br>〇家庭訪問の充実による信頼の構築、地域資源を活用した教育の推進<br>〇ＰＴＡ活動・地域活動及び奉仕活動等の協力と推進、学年懇談会等の充実<br>〇学校通信、学年だより等の発信、ホームページ、すぐメール等の充実と活用<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>　家庭と学校との連携が大切だが、生徒の１６％が学校・教師からの発信を保護者に伝えていないため、情報伝達の重要性等を指導する必要がある。開かれた学校づくりの推進では、肯定的な回答が教師、保護者ともに９７％となっている。フリー参観、合唱コンクール公開リハーサル、体育祭、文化祭に多くの保護者や地域の方々、園児などの来校があった。また、部活動の一環としての地域行事やボランティア活動への参加も、本校教育活動の成果を見てもらう機会になった。地域とともにある学校として、今後も地域に根差した学校づくりを進めていく。 | |

２　改善方針

・生徒指導委員会から生徒指導に関する具体的な方策を提案し、「チーム南中」として一枚岩での指導を推進していく。問題行動に至った背景や個々の生徒の状況を把握したうえで指導し、生徒の自治能力を向上させて守りの生徒指導から攻めの生徒指導への転換をさらに推進していく。
・経験の浅い教員が更に増えていく見込みなので、日常的なＯＪＴを学年や分掌、委員会などあらゆる場面で進めていく。
・教職員同士の対話を重視し、多忙ながらも全教職員がやりがいを感じながら教育活動に取り組むことができるようにする。
・授業改善、教師力向上に向けて各研修会に積極的に参加し、還流報告によって校内研修を活性化する。
・全国学力・学習状況調査やＣＲＴ・ＮＲＴの結果を分析し、本校生徒の状況から全教職員で課題を確認して授業改善に活かしていく。学習が苦手な生徒にも、理解できることを一つでも多く増やし、学びをあきらめさせないことで学力の底上げを図る。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　西陵中　　学校

## １　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 確かな学力の定着<br>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得<br>②言語活動の充実と学び合いを大切にした授業づくりの推進<br>③家庭学習に地道に取り組む姿勢の育成 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 確かな学力の定着を実現するために、まずは学習規律の確立を徹底させた。さらに、「わかりやすい授業」「ICTの活用」「補充学習」「家庭学習の充実」「少人数授業による指導」「課題解決学習の充実」「言語活動の充実」「共に学びあえる学級集団づくり」「学び合いの授業づくり」「個に応じた指導」を具体的方策として取り組んだ。<br>その結果、本年度の学校アンケートの結果では、「わかる授業」に関する項目では、９割以上の生徒から肯定的な回答を得た。また、教師も全員が「授業改善・工夫を行っている」と回答している。<br>校内研修の充実を図り、教師全員が、生徒がわかりやすい授業づくりや言語活動の充実を目指した。授業の開始と終わりには学習の「めあて」と「振り返り」を明確に示し、ペア学習やグループを活用をしながら授業を組み立てた。授業の中で、生徒相互が関わるような場面を設定することで、互いの意見を交換したり、考えを深めたりする活動も成果を上げている要因と考えられる。学力定着に向けて、小テストや補充学習、夏季休業中の学習会、ティームティーチングによる指導が、粘り強く学習する姿勢を身につけさせることに成果を上げている要因と考えられる。<br>本年度は、１・２年で帰学活の前に補充学習の時間を設定し、国語・数学・英語と３年生では、５教科の基礎学力の定着を狙いとした取り組みを行った。<br>保護者との連携を深めチェックシートを活用しながら生活習慣・読書習慣等けじめのある習慣を支援するとともに家庭学習においては、家庭での学習時間を確保するため、宿題の内容やチェックの仕方等についての工夫を考えていく必要がある。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 主体的に生きる力の育成<br>①望ましい勤労観・職業観の育成　②コミュニケーション能力の育成<br>③自主活動の充実　④社会性の育成 | 4 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 主な具体的な方策は、「キャリア教育の充実」「追究活動、体験活動の充実」「話す聞く活動の重視」「学校行事、生徒会活動、学級活動の自主的運営」である。<br>望ましい勤労観・職業観の育成を目指し、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、１年生から段階的・系統的に取り組んだ。１年生でドリームマップを作成し、自分の生き方や自分の将来を考える上で、生徒が実感できる有効な教育活動であった。また、2年生に職場体験学習を実施したことにより、社会のルール、マナーを直接体験し、自己の生き方を考えるきっかけとなり、「社会性の育成」につながった。さらに、自然教室、修学旅行、社会見学といった体験学習では、集団で行動するときのルールやマナーを身につけさせた。３学期にはようこそ先輩と題し、本校卒業生を招いた講演会を実施し、より身近な生の声を聴く機会を設けることで自分のこととしてとらえる機会となっている。<br>また、「自主活動の充実」「社会性の育成」では、体育祭や文化祭等の行事において、生徒会や学級のリーダーの育成を進めながら生徒自らが主体的に取り組めるように進めた。体育祭では縦割り種目を取り入れ、生徒主体の活動がより進められた。<br>生徒会・学級活動等、日常のあらゆる活動において、「話す聞く活動」を重視し、「コミュニケーション能力の育成」を図るなど、キャリア教育の視点で、取組をすすめた。その結果、学校自己評価アンケートの「キャリア教育の推進」に関する項目では、生徒は９割強、保護者は８割強の肯定的な回答を得た。　今後、このキャリア教育の全体計画を基に、中学校区の小学校と具体的に連携して取り組んでいくことが課題である。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 豊かな人間性の育成<br>①豊かな心の育成　②確かな人権意識の育成　③文化・芸術的感性の育成 | 4 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 主な具体的な方策は、「思いやりのある集団づくり」「生徒会、学年、学級活動の充実」「道徳・人権教育の推進」「文化的行事の企画」である。<br>学校自己評価アンケートの「道徳・人権教育の充実」「仲間づくり」に関する項目では、生徒は約９割、保護者は８割強の肯定的な回答を得た。<br>「豊かな心の育成」のために、道徳の時間を要として、すべての領域・教育活動において道徳人権教育の充実を図った。「確かな人権意識の確立」に向けては、班・学級を集団の柱とし、常に仲間を意識した生活を指導した。また、授業でも言語活動・コミュニケーションを意識した授業づくりに取り組んだ。この取り組みは、重点目標２ー②「コミュニケーション能力の育成」にもつながったと考える。<br>「文化・芸術的感性の育成」では、文化祭において、プロの演奏者三味線の鑑賞、文化部の活動、音楽科、美術科、英語科を中心とした教科指導等、事前指導、事後指導も含めて、生徒の情操面での育成に努めた。<br>これからも日常生活で触れることのできない文化・芸術に触れる機会を計画的に設けていくことが必要である。特に３年生の有志による英語劇ロールプレイの部では県全体中の２位と好成績を得ることができ、思いやりや生徒間の絆が顕著に表れた瞬間であった。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標４ | 自己管理能力の育成<br>①安全意識の向上　②健康管理・体力づくり　③規範意識の向上 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 主な具体的な方策は、「安全意識の向上」「安全教育の充実」「健康管理・体力づくり」「授業規律の確立」「生徒指導の充実」である。<br>学校自己評価アンケートの「危機管理体制」「生徒指導上の問題への対応」「教育相談」に関する項目では、生徒は９割以上、保護者は８割弱の肯定的な回答を得た。<br>「安全意識の向上」「安全教育の充実」では、交通安全教室、防災教室、安全パトロール等、安全教育の充実を図ってはいるものの、実態としては十分とはいえない。特に、交通ルール・マナーに関して、今後も粘り強く取り組みを行っていく必要がある。<br>防災に関して、１・２学期は通常の避難訓練、３学期にはJアラートを活用した緊急避難訓練を実施した。特に３学期に実施した避難訓練では、屋外に避難するのではなく、屋内で避難体制をとるといった通常の避難訓練とは違う内容で実施した。今後も、繰り返し実施することで、教師の動き、生徒の動きの検証を行い、マニュアルの改善を行っていく必要がある。<br>「健康管理・体力づくり」は、保健体育科の授業、保健だより、部活動などを中心に進めることができた。学校自己評価アンケートの、「部活動の充実」に関する項目では、生徒は９割弱、保護者は７割強の肯定的な回答を得たが学校規模等で考えていくとなかなか生徒・保護者のニーズに近づいていけないところであると思われる。<br>「授業規律の確立」「生徒指導の充実」は、学期に１回、教育相談期間を設け、生徒の内面に迫る取り組みを行った。また、週に１回、運営委員会、生徒指導委員会、特別支援担当者会（隔週）をそれぞれ開催し、学級や生徒の情報交換を行い、各委員会を有機的につなげ、支援が必要な生徒に対する方策の検討、問題行動に対する迅速な対応を行った。<br>しかしながら、学校アンケートでは、「教育相談」「部活の充実」の項目の肯定的な評価が、他の項目と比較して低い現状にある。今後、支援を必要とする生徒への早期対処、問題行動の早期発見・早期解決や組織的に対応できる体制づくりに一層努力していく必要がある。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標５ | 教師力の向上<br>①教職員の資質・能力の向上　②情報活用能力の向上　③校内研修の充実 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 主な具体的な方策は、「教師力向上研修」「分掌組織の連携と組織力向上」「ICTの活用技術の向上」「授業の質の向上」である。<br>学校アンケートでは、全教師が「基礎・基本を明確にし、授業改善・工夫を行っている。」「学習の評価を適切に行っている。」と回答している。<br>教師力向上研修では、個人分析をもとにした、個人目標の設定を行った。その後、管理職からの助言や同僚との相互研鑽を行い、個人目標達成に向けて実践を積み重ねた。<br>わかりやすい授業を実現するために、話し合い活動を中心とした授業改善に向けて、校内研修を行った。校内研修では、講師を招聘し、活用技術の指導を受け、自分の授業に効果的に取り入れることを目標とし、職員全員の相互公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組んだ。また、教育アドバイザーを活用し、若手教員が研修を深める機会を設定し、授業の質の向上を図った。<br>職員全員の相互公開授業により、生徒の言語活動を大切にした授業づくりについて、教科を越えて、同僚との相互研鑽を深められた。今年度、授業の「ねらい」を明確にした授業改善に取り組めたことは、大きな成果である。<br>また、職員間で日常的に行われている、自身の授業改善に関する情報交換、生徒に関する情報交換等、職場内でのＯＪＴも、学年、教科の枠を越えて活発に行われている。<br>しかしながら、授業や教師の対応に関して、厳しい意見をいただいていることも事実である。今後は、一層教職員の資質・能力の向上を目指した研修を実施し、年度途中に、教師自身や学年、各委員会の取組を学校づくりビジョンに照らし合わせるための研修を設定し、調整を図っていく必要がある。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標６ | 家庭地域との信頼関係の確立<br>①家庭・地域との連携　②開かれた学校づくりの推進 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 主な具体的な方策は、「地域の催しへの積極的参加」「年間３回の学校公開日の設定」「通信、学校ホームページ等による定期的な情報発信」「保護者との対話の重視」「学校自己評価、学校関係者評価をもとにした改善」である。<br>学校自己評価アンケートでは、「保護者・地域との連携」「情報の発信・受信」に関する項目に対して、生徒・保護者ともに９割弱の肯定的な回答を得た。<br>学校公開日の実施、学校行事等への保護者や地域住民の参加など、開かれた学校づくりへのさまざまな取り組みの成果であると考えられる。<br>今後は、保護者との対話の機会を多く持つようにし、学校ホームページの更新、各種通信の発行等に多くの教員が関わることで、タイムリーな発信が行われるようにしていきたい。<br>また、学校づくり協力者会議を年３回実施し、学校経営に対する学校関係者評価をもとに、来年度の学校づくりに向け、改善の方向を明確にすることができた。 | |

２　改善方針

☆ 「学校づくりビジョン」「重点目標及び具体的方策」の見直しを図る。
○ 基礎学力の定着や個に応じた指導をさらに進めるため、少人数授業やティームティーチング授業によるきめ細やかな指導を行う。
○ 授業目標を明確にした生徒がわかりやすい授業を実現し、言語活動を充実させるための授業改善を進める。
○ 指導法や評価について今後も追究し、授業の充実を図る。
○ 教師力向上研修や公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組む。
○ 職員の感性を磨き、生徒の心に寄り添った指導の確立をめざす。
○ 小学校との連携を進め、共通理解を基盤とした、特別支援教育体制、生徒指導体制の確立をめざす。
○ 教職員の人権意識を磨く研修をさらに進める。
○ 危機管理意識を高め、生徒の事故の未然防止を図る指導体制の確立を目指す。
○ 学校だよりや学年通信の定期的な発行、学校ホームページの更新等、情報発信を積極的に行っていく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　三滝中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 差別の現実から深く学ぶ人権学習の充実と道徳教育の推進<br>～差別を許さない仲間づくり～豊かな感性・豊かな人権感覚及び道徳的実践力を育成する。 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○　三滝プランをベースとした出会い学習や体験活動の重視、生徒の実態に応じた学習の工夫及びさまざまな人権課題についての学習の深化と工夫<br>・各学年、修学旅行や校外学習においてフィールドワークを取り入れ、生徒の実態に応じた講演者を選定した学習に取り組んだ。同和問題を考える土曜活動として、親子人権学習会、人権問題を考える講演会、土曜サロン（保護者懇談会）を行い、保護者と生徒が共に部落問題を考える場として大切な教育活動と位置づけ実施した。人権問題について参加者が考えや意見を交流し学び合う良い機会となっているが、参加者数が少ない事が課題であり啓発活動の在り方を考える必要性が高い。<br>○　保護者・地域との連携<br>・ＰＴＡ地区委員や役員全員対象の学習会やＰＴＡ委員会時のミニ学習会、各地区同和（人権）教育推進協議会主催の啓発地区懇談会や人権フェスタなどに教職員・保護者が参加することにより、自己啓発や他者啓発に努めることができた。また、『一人暮らしの高齢者に色紙を送ろう』の取り組みも定着し、地区社会福祉協議会と連携し地域の方々に親しまれた充実した活動となっている。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 学力向上システム「MITAKI」とキャリア教育（『志授業』・学びの一体化）の推進 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○　学力向上システムＭＩＴＡＫＩの実践<br>・家庭学習と授業との連携の意識を強化。授業の振り返りシートを作成。生徒同士のサポート体制を取り入れ、基礎学習で取組み、家庭学習で補完した。結果、授業のめあてが明確となり学習ポイントの定着につながった。<br>○　放課後補充学習「グッジョブ」の実施<br>・月曜日７限目に全校体制で補充学習を実施し、基礎学力向上に取り組んだ。生徒個人の学習相談時間も設定。効果あり。<br>○　保護者・地域との連携、情報発信の強化<br>・保護者や地域住民、学校づくり協力者会議や保護司のメンバーを対象に年６回の授業公開を実施。事後懇談会を実施しご意見をいただき、新たな気づきや刺激を受けることができた。<br>○　キャリア教育（志授業・学びの一体化）の推進<br>・校区の小中学校３校に保育園・幼稚園の教職員を交え、年３回公開研究授業を実施。発達段階に応じた指導の在り方、保幼小中における共通な課題について討議を行った。校区小学校とは、英語（外国語教育）の乗り入れ授業実施。６年生対象中学校入門講座（１０講座）を開催。中学生の夏季基礎学習講座に川島小、神前小の教員が参加。子どもへの関わり方や支援の仕方について共有する場とした。 | |

| 重点目標３ | 生徒指導・安全指導の充実 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○　登下校指導の徹底<br>・登下校時に正門に職員が立ちあいさつを積極的に行っている。安全運転の呼びかけや子どもたちとの関係づくりのきっかけとなっている。<br>○　学期に一度の定期的な教育相談と日常タイムリーな相談体制の確立<br>・生徒の悩みや話したいことを受け止められる場を大切にした。結果、不登校やいじめ等の未然防止、早期発見、早期解決、再発防止につながっている。<br><br>○　家庭訪問を通した保護者・生徒との信頼関係の構築及び各関係機関との連携<br>・保護者や生徒との信頼関係づくりに努力している。支援を必要とする生徒の検査や各関係機関との連携は概ね上手くいっており、今後の支援の在り方を多くの職員で考え実践している。<br>○　自転車通学への見守り指導の強化<br>・自転車による通学マナーは、本校の課題の１つ。地域からの苦情は、自転車の乗り方に関するものが多く、自動車との交通事故件数も多い地域の重点危険箇所に教師とＰＴＡが連携し登下校指導を行い対策をとったことで、安全運転の啓発にもつながっている。大きな交通事故はなく件数も減少傾向にある。 | |

| 重点目標４ | 教職員の資質・能力の向上 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ・「多忙感」を少しでも減らしていくために、「無くす」「減らす」「変える」を視点に校務の効率化に努力してきた。これからも子どもたちと関わる時間の確保を大切にしていく。<br>・「学び合い・学び続ける教職員集団」を目標に研修会の持ち方を工夫してきた。グループでの話し合いや子どもの姿から分かることを述べ合うなど考えを言いやすい雰囲気づくりはできている。ただ、自己評価アンケートにおいて肯定的な回答が少ないことから、研修機会の確保と方法の工夫を継続し、今後も自己相互研鑽に努める。 | |

| 重点目標５ | 学校評価および学校教育活動内容についての情報発信の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○　学校評価・学校教育活動の情報発信の工夫と強化<br>・保護者・生徒からは、開かれた学校に関する設問に対して、概ね良好な評価。学校ＨＰ更新や学校便りを通した情報発信の継続。学校づくり協力者会議への提示と意見聴収。保護者や生徒の学校評価アンケートについては設問の意味を理解してもらうための説明を丁寧に行うことで啓発にもつなげたい。<br>○　学校公開の機会拡充<br>・学校公開週間を定期的設定。体育大会や三滝祭では多くの参観者。アンケートでも行事については高評価。平日・休日のバランスも考えながら今後も学校公開を積極的に行っていく。 | |

２　改善方針

○　人権・福祉・環境教育の充実
・保護者や地域への取組の発信に力を注ぎ、より一層、全校生徒の取組として一人ひとりがより実感がわく取組となるよう改善を行う。また、さまざまな分野の方との生徒の交流体験の充実を図る。道徳の教科化を見通し、従来の三滝プランとの兼ね合いを整理し実践していく。
○　落ち着いた学校生活環境の継続徹底
・特別支援・不登校対策委員会を中心に各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制をより充実させていく。また、クラス会議や生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちで作る意識高揚につなげる。
○　学力向上の取組・教科学習の充実
・生徒・保護者の肯定評価が一層高まるよう指導の充実を図り取組の発信に努める。学力向上システムＭＩＴＡＫＩの実践の継続。効果的な個に応じた指導。教員の授業実践研修の充実や基礎学習タイム「グッジョブ」の効果的な活用や夏季休業中を利用した基礎学力補充の充実を図る。
○　家庭や地域の信頼に応える学校づくり
・定期的な通信の発行及び学校ＨＰの更新による情報発信の強化は責務。地域行事への積極的な参加及び連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　大池中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 学力の向上（知とのつながりを育てる） | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **○言語活動、学び合いのある授業の推進**<br>・学び合いのある授業を取り入れるため、多くの機会を設けることができた。<br>・各教科「言語活動」の取り組みをさらに進めていく必要があり、学び合いが成立するような生徒同士の「対話的な学び」の場面を多く取り入れる必要がある。<br>・生徒が毎日提出する「デイリーライフ」を活用した作文能力向上の取り組みなども効果的であると考える。<br>**○基礎的、基本的な知識、技能の定着**<br>・数学科では、「音声トレーニング」や毎日の宿題で、基本的な計算力はついてきている。<br>・国語科では、書いて覚えるためだけのノートを準備し、毎週１ページをノルマに取り組めた。<br>**○「トライやるタイム」で、学習習慣の確立**<br>・今年度、トライやるタイムの意義を生徒や保護者に周知でき、いままでの学習内容をもう一度振り返らせることができるなど基本的な内容の学習の場となっている。<br>・低学力生徒の中には、ただ答えを写すだけなど家庭学習の定着という部分では、やや不十分であった。<br>**○特別支援教育の充実**<br>・専門知識をもった外部のアドバイザー等と連携し、委員会を中心にタイムリーで有効な特別支援教育を図れた。<br>・隔週ではあったが、計画的に支援委員会を開催し、支援の充実に努力できていた。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 豊かな人間性と健康な心身の育成（人とのつながりを育てる） | 4 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **○規範意識、自己肯定感の向上**<br>・年々、確実に向上が見られるようになってきた。<br>**○道徳教育の推進**<br>・研修委員会を中心に、学校としてしっかりと進められ、それぞれの学年で成長に応じた内容で道徳授業が進められている。<br>・２年間「道徳の授業づくり」研修に取り組んだことで、道徳授業が充実できたと同時に、日常生活の中でも生徒に道徳的な指導ができるようになった。<br>**○不登校の未然防止と改善の取り組みの推進**<br>・毎日の記録を書かせることで、生徒の心の状態を知ることができ、未然防止や早い対応ができている。<br>・不登校対策委員会を定期的に開催しており、ＳＣも参加することで、カウンセリングにつなぐ等の対策を考えることができている。<br>・不登校対策委員会を開催し、個々の事例に対して考えられているが、不登校生徒数は減っていない。<br>**○基礎体力の向上**<br>・学校として、スポーツテストの分析を実施し、体育科・部活動を通じて課題となるところを伸ばしていこうとしている。<br>・火、木の朝のランニングを学校全体の取り組みとしていきたい。 | |

| 重点目標３ | キャリア教育推進（社会とつながる力を育てる） | 4 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **〇あいさつ、マナー意識の向上**<br>・マナー教室などの取り組みは、充実してきている。<br>・あいさつは、昨年度よりもできるようになってきたが、学年によってやや差が見られる。<br>・相手を心地よくさせるあいさつやマナー意識の向上までは至っていない。特に、言葉づかいの指導の徹底を学校全体で行っていきたい。<br>**〇進路を切り拓く力の育成**<br>・キャリア教育を３年間というスパンで考えられている。<br>・年間計画に沿った３年間の取り組みをする中で、保・幼・小からのつながりを意識することも必要と考える。<br>**〇修学旅行、自然教室、職場体験学習の充実**<br>・各学年、事前準備からしっかり取り組め、他の生徒とのかかわりが持てる場ともなっている。<br>・さらにキャリア教育として取り組む方向へ変えていく。<br>**〇合唱活動の推進（学級・有志合唱）**<br>・大池中の柱となる活動になっている。さらに特化して推進すべき活動と感じる。<br>・先輩から引き継がれ、生徒の自主的な練習にもつながっている。<br>・各学校行事では、実行委員会を組織し自分たちでルールを作り、取り組みを反省し、次に生かそうと努力することができていた。 | |

| 重点目標４ | 地域とともにある学校づくり<br>（社会・地域とのつながりを育てる） | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **〇御池沼沢における環境学習の実施**<br>・御池沼沢についての理解や環境学習の場としての取り組みも進みつつある。<br>・生徒の自主的なボランティアにもつなげることが必要である。<br>**〇地域人権集会、人権フェスタへの参加**<br>・生徒会を中心に取り組めているが、学校全体の活動としていく必要がある。<br>**〇地域と協働した行事への参加**<br>・今年度行った「地域防災訓練」は、２学年の生徒の参加となったが、ぜひ必要な活動である。今後も計画的に取り組んでいきたい。<br>・「地域こども教室」などの活動が広がりをみせるとよいと考える。 | |

| 重点目標５ | 地域とともにある学校づくり<br>（保護者・ＰＴＡとの連携による教育） | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **〇親子奉仕作業、部活動見学会の実施**<br>・ＰＴＡとも連携が取れ、計画的にしっかりと行われている。特に「部活動見学会」は、小学生にとっても中学校を知るよい機会になっている。<br>**〇親子人権学習の充実**<br>・親子で「人権」について考えるよい機会とするため、保護者の参加を呼び掛けていく必要がある。<br>**〇通学路安全指導の実施**<br>・安全指導については、ＰＴＡ地区委員の協力を得ながら　丁寧に行えている。以前よりは、苦情も少なくなってきた。<br>・さらに、地域との連携を進め、生徒の登下校中の安全を保障していきたい。<br>**〇家庭、地域への情報発信**<br>・学級通信や学年通信が定期的に多く発行され、情報の発信ができている。<br>・各学年通信を必要に応じて発行しているが、保護者に通信が届かないことがある。<br>**〇総勤務時間縮減に向けての取り組み**<br>・学年会の日を「部活なし」にするなど工夫がみられた。<br>・やり方によっては、さらに教員の負担を増やすことになるため、今後の取り組みへの工夫が必要となる。 | |

２　改善方針

①「言語活動、学び合いのある授業の推進」をより良いものにするため、班や小集団、クラス、学年の発表の質を高めていくことが必要である。
②家庭学習の定着を図るための手立てを進めていく。（トライの取り組みについては、工夫し生徒にとって有意義なものになるよう考えていく必要がある。）
③研修の重点内容に、話し合いに必要な子どものスキルを高める実践を取り入れる。また、教師が良きつなぎ役になれるような研修も必要である。
④今後増えてくるであろう特別な支援を要する生徒に対してＳＣやＳＳＷの活用などをを積極的に進めていきたい。
⑤自らの働き方を見直し、創意工夫を図りたい。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　朝明中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜アンケート結果＞<br>「道徳・人権教育の充実」3.6P（生徒）、3.1P(教職員)<br>「生徒指導上の問題への対応」3.3P(生徒)、3.3P(教職員)<br>「特色ある教育課程の編制」3.4P(生徒)、3.4P(教職員)<br>＜成果＞<br>〇校内の研修計画の重点の一つに、人権・同和教育の視点をふまえた仲間づくりを位置づけたことで、各学年計画的に人権教育・仲間づくりに取り組み、特に生徒の評価ポイントが高い。<br>〇キャリア教育、進路指導の一環として、社会や進路と学習の関わりについて考えさせる取組から、学習に対する姿勢が育ち、目的や目標を持って学ぶ姿がみられた。<br>〇各学年「総合的な学習の時間」を中心に体験活動を伴った地域理解・体験及び地域貢献学習に取り組んだことで、生徒たちに地域を愛し大切にする心情を育むことができた。<br>〇ベル席の徹底、教室内の整理整頓、服装･頭髪等の身だしなみの指導の徹底をすることで基本的生活習慣の確立に一定の成果をあげることができた。<br>〇休み時間等生徒と触れ合うことを大切にし、全校体制で取り組むことができた。<br>〇不登校生徒が増加傾向にある中で、教育相談の機会を大切に捉え、カウンセリングマインドにのっとり悩み事を抱えている生徒に寄り添い適切な対応をとることができた。<br>＜課題＞<br>●各学年とも人権教育推進計画に基づいて人権学習に取り組んだが、教育活動全体の中で実践する教員の意識が弱い。また、生徒は差別はしてはいけないこととわかっていても、日常の言動に結びつかないという事案も見られた。<br>●道徳教育については、どの学年も道徳の時間を計画的に運用できていない状況がある。<br>●生徒指導について、指導方針は統一しているものの、職員が入れ替わる中で、ここ数年大きな問題行動がないため、情報の共有が遅れたり、指導方法がずれたりすることがあった。<br>●生徒個々に耐える能力や困難なことに立ち向かう能力が十分育っていない。<br>●朝の読書には、ほぼ全員の生徒が取り組めるものの、家庭読書の習慣が十分身についている生徒が少ない。 | |

| 重点目標２ | 確かな学力の育成～基礎基本の定着と自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜アンケート結果＞<br>「わかる授業」3.4P(生徒)、3.3P(教職員)<br>「特色ある教育課程の編成」3.4P(生徒) 、3.4P(教職員)<br>＜成果＞<br>〇帰り学活で１・２年生は、基礎基本の反復練習を中心とした補充学習、３年生は、進路学習を実施し、学力の向上を図った。<br>〇全学年による長期休業中における学習会、定期テスト時の質問日を実施した。また、長期休業中の学習については小学校とも連携できた。<br>〇校内研修で、“気づきのある深い「学び合い」”をテーマとして、具体的な取組を行い、日々の授業の中で、生徒たちによる“教え合い・学び合い”が定着し、基礎・基本の定着が図られた。また、本校版「授業の型」を意識した研修が３年目となり、教員の「学び合う」授業づくりの意識が定着し、意欲的に取り組む子どもの姿が多く見られた。<br>〇学びの一体化では、学校公開時の授業参観や小学校３・４・６年生を対象に乗入授業（理科）を行った。また、新1年生の春季休業中の課題についても、小学校と連携して生徒に取り組ませることができた。<br>〇コミュニティスクールの取組３年目となり、全学年「総合的な学習の時間」を中心に、地域理解・体験及び地域貢献学習を充実させたことで、学ぶ意義を実感する生徒が増え、自主的・主体的に学ぶ姿勢が育まれた。<br>＜課題＞<br>●「学び合う」授業実践、補充学習や長期休業中の学習会の取組が、生徒の学力向上に十分結びついているかどうかの検証が不十分である。<br>●主体的で対話的な気づきのある学びのある授業実践が十分でない。<br>●生徒の家庭学習に取り組む時間が全国平均と比べ少ない。<br>●学びの一体化では、以校種の相互参観や乗り入れ授業数がまだ十分でない。 | |

| 重点目標３ | 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～ | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ＜アンケート結果＞<br>「充実した学校生活」3.6P(生徒)、3.2P(教職員)<br>「部活動の充実」3.6P(生徒)、3.3P(教職員)<br>＜成果＞<br>〇体力面では、「体づくり」という観点で体育科を中心に、準備運動に「リズム体操」を取り入れたり、定期的に「持久走」を行ったりするなど、年間を通して継続的に取り組んでいる。その結果、新体力テストにおいて「瞬発力」、「筋持久力」、「柔軟性」、「俊敏性」、男子の「全身持久力」、「スピード」は、全国平均を上回っており一定の成果をあげている。<br>〇部活動においては、多くの生徒が熱心に取り組み、複数の部が県大会以上の大会に出場するなど成果を上げている。<br>〇学びの一体化の「体づくり部会」として保幼小中連携し、特に「持久力」、「柔軟性」を子どもに身に付けさせるよう取り組めた。<br>＜課題＞<br>●部活動を３年間継続できない生徒が増えている。<br>●新体力テストにおいて、女子の「全身持久力」と「スピード」、男女ともに「握力」面で全国平均を下回っており、課題がある。 | |

２　改善方針

＜重点１＞「 和　豊かな心の育成 」
①「人権教育」
　子どもたちが普段の行動につながるよう、当事者との出合い等の体験的な学習を多く取り入れるなどして、子どもたちの生活に引き寄せて考えられるような指導を行っていきたい。
②「道徳教育」
　平成３１年度教科化に向けて、各学年年間計画の見直しを図る中で、より実効性のある内容にしていく。
③「読書活動」
　市の読書推進教育の指定２年目となり、各教科授業での活用を促進するなど、校内での推進はもちろん、地域や外部の力も借りてより一層充実できるようにする。
④「安全教育」
　地域関係者の協力を得たり、生徒の委員会活動ともリンクさせたりして、登校指導を行ってきたが、今後継続するとともに、関係機関と連携した交通安全教室を計画的に実施し、安全指導をより充実させる。
＜重点２＞「 学　確かな学力の育成 」
　今年度“気づきのある深い「学び合い」”と、“人権・同和教育の視点をふまえた「仲間づくり」”を研修のテーマとして、日々の授業の中で、仲間づくりを基盤とした「学び合い」の研修を一層深め、一定の成果が得られた。しかしながら、授業の中で、直ぐに教師や級友に頼ってしまったり、教師の指示を待ってしまったりする生徒の課題が浮き彫りになってきたことから、来年度は、個に焦点を当て、自らが考え・判断し・表現（伝える・行動する）できる生徒個々の能力の育成を重点として研修に取り組む。
＜重点３＞「 鍛　健康な心身の育成 」
　保健体育の授業において、新体力テストを実施することで、自分の体力の現状を把握し、更に結果から得られた助言を参考に、各自の目標に向け継続的に努力を促してくいく。「部活動」においては、結果至上主義にならないように配慮し、精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていきたい。
　「心の健康」については、全校体制による日常の生徒との触れ合いを徹底するとともに、教育相談をはじめ生徒に寄り添う取組を継続する。またスクールカウンセラーや教育相談担当と連携して、見通しをたてて取り組み、自分の心体状況を正しく捉える力、原因を考え自分で対処していく力等を育て、自分の心身をコントロールできるよう関係機関とも連携しながら取組を進めていきたい。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　保々中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 『豊かな感性』の育成<br>平成29年度重点＜気持ちよくあいさつする生徒を育てる＞ | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>・徹底的に「あいさつ」にこだわる。<br>・生徒会によるあいさつ運動、福祉委員会によるあいさつの呼びかけ<br>・登下校時の教員からの積極的なあいさつ<br>・日常的なあいさつ指導<br>・部活動でのあいさつの奨励<br><br>【成果】<br>・以前に比べ、自分からしっかりとあいさつができる生徒が増えてきた。すぐに大きな声は出なくても、あいさつされると返事をするということは定着してきている。<br><br>【課題】<br>・顔を合わせたらあいさつが当たり前になるように、今後も学級や部活動、登下校でのあいさつを続けると同時に、あいさつの意味や意義をもっと伝えていく必要がある。生徒の中には”気持ちよく”あいさつをできかねる生徒もいるので、気持ちのよいあいさつをめざしていきたい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 『やり切る態度』の育成<br>平成29年度重点＜ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てる＞ | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>・途中でやめず、最後まで完成させる。<br>・清掃カードでの評価を続ける。<br>・気づいた教師や生徒が朝や休憩時間等いろいろな場面で整頓を呼びかけたり、個別に細やかに指導する。<br>・委員会によるロッカークリーンコンテストを実施する。<br>【成果】<br>・教師や生徒からの呼びかけにより、机の中やロッカーの整理整頓を意識できる生徒は増えてきている。<br>・清掃カードの評価で、担任がその日の掃除の様子を知ることができ、学級での指導につなぐことができている。また、ていねいにまじめに清掃に取り組む生徒は多く、特に大掃除ではほとんどの生徒がよく動いている。<br>・自分たちで声の掛け合い等ができている。<br>【課題】<br>・特定の生徒に個別に指導をしてはいるが、身の回りの整理整頓が定着しない現状がある。できるようになるまで意識を持たせられるよう整理整頓の仕方を含めて指導を続ける必要がある。<br>・きちんとしている、がんばっている生徒たちへの称賛を増やすことで、好循環を生む工夫があるとよい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 『生きぬく基礎』の育成<br>平成29年度重点＜きちんと時間や期限を守り、授業を大切にする生徒を育てる＞ | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>・授業では教師が始業時間に教室にいる。<br>・集会など生徒が集まるとき、生徒より先にその場に行く。<br>・生活委員会によるベル席コンクールや声かけを行う。<br>・授業で「めあて」と「振り返り」を明示する。<br>【成果】<br>・生活委員のベル席コンクールや教師が始業前に教室に入室することで、ベル席はずいぶん習慣化しており、授業に向かう姿勢も全体的に前向きである。また、呼びかけるのが、委員や教師だけでなく、周りの生徒も声かけをするようになってきている。<br>・「めあて」を明示することで、生徒ができたかどうかをふり返りやすい授業形態になっているため、なんとなく授業を受けている生徒が少ない。<br>【課題】<br>・着席はできているが、次の授業の準備が不十分なところもある。<br>・多くの生徒は時間や期限を守ろうとし、授業を大切にしているが、時間を守る気持ちに欠ける生徒も特定化されてきており、時間に対する甘さがある。<br>・宿題などの課題を授業直前にする生徒もいるため、家庭学習の習慣を身につけさせる必要がある。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標４ | 「信頼される学校づくり」<br>平成29年度重点＜生徒の保々地域への愛着の気持ちを高める＞ | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【主な方策】<br>・事実を隠さず、真実を知らせる。<br>・保護者とのつながりを密にとっていく。<br>・保々地域の各団体と連携をとっていく。<br>・地域との協力作業（奉仕作業や学校行事など）を通して、地域への愛着を高める。<br>【成果】<br>・道徳や人権劇の取り組みなどで保々地区のことや自分のあり方などについて考えることができた。道徳、人権の授業などを地域の方に相談しながら作ったり、それを還流する機会があり、教師と保護者の両方から生徒へ話ができるので、地域のことを考える機会が多い。<br>・職場体験で保々地域の方にお世話になった生徒も多く、愛着の気持ちは高まった。<br>・「保々が好き」という生徒が多く、自然豊かな保々に愛着を持っている。<br>【課題】<br>・各教科で保々地区に関係ある教材が活用できればより良い。<br>・信頼される、という点では、保護者や生徒が学校に対して思っていることはまだまだあるので、保護者と「連携」ができる関係づくりが必要である。 | |

２　改善方針

・かけ声を、具体的にわかりやすい形に、表現する。
・少しずつの改善を毎年レベルアップしながら根気よく積み上げていく。繰り返しと見える形にしていくことで意識は高まりやすいので掲示物など工夫ができれば成果につなげていく。
・生徒の考えや興味が持てるような教材やアプローチにより効果の高い教育をしていく。
・現在取り組んでいるベル席チェックや挨拶運動、環境委員会からのロッカーの整頓などの声掛けを、引き続き根気よく実行していく。そして、挨拶・掃除・時間については、まず教職員が見本となるよう実践していく。
・保護者や子どもの声に耳は傾けるよう努力は必要であるが、学校としての（教師個人としてでなく）返答がしていけるよう、意思統一していく。
・ロッカーや机の中の整理整頓等、職員全員が一体となった、指導の統一。毎時間授業担当の教員で指導していく。
・道徳も含め機会あるごとに「３視点」に基づく指導をしていくとともに、自身の「３視点」の実行状況などを定期的に確認させる場を設けたり、SSTなどを取り入れ前向きな姿勢を育てていく。
・人として大事な部分なので、保幼小中で本視点も組み込みながら進めていく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　常磐中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 確かな学力の定着と指導の充実 | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 約9割の生徒が「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」と回答している。全国学力・学習状況調査（３年生）、みえスタディ・チェックやＣＲＴ検査（１・２年生）の結果等も活用しながら本校生徒の学習の定着状況を確認し、課題となった学習内容や領域に対する重点的な指導を意識した授業の実践に日々努めていきたい。本年度も２・３年生の数学において少人数学習を実施し、それぞれ基礎・標準コースに分かれ学習することで、個々の学習意欲も高まり、みえスタディ・チェックの結果からも効果がうかがえる。また、2・3年生の英語でＴＴ（ティームティーチング）を取り入れ、個々への支援を増やすことで生徒もわかりやすいと感じている。今後とも生徒の学習状況や学習内容に応じて授業形態を工夫し、基礎基本の定着と学力の向上につなげていきたい。基礎学力の向上にむけてToki10の取り組みは落ち着いて行われているが、さらに充実した取り組みになるよう、内容を検討し、また家庭学習の習慣化のための、Tokiノートの取り組みも試行している。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 豊かな人間性の育成 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 豊かな人間性の育成をめざして、道徳・人権教育を学年ごとに取り組んできている。成長段階に見合った取り組み、また3年間の系統だった取り組みになるよう、各学年また学校全体として取り組んでいる。人権学習を通して、様々な差別の問題を他人事ではなく、自分自身の問題としてとらえ行動につながるような生徒の育成を目指しているが、まだ普段の生活の中での心無い言動も見られる。今年度も人権講演会を行い、講師先生の話を通してこれまでの自分自身の行動を振り返り、自分にできることは何なのかを考えるよい機会になったと考える。今後も生徒の実情を踏まえ教科化される道徳と連携して人権学習課題の解決に向けて取り組みを考えていきたい。<br>また朝の読書の時間にも生徒は落ち着いて取り組んでいるが、さらに生徒が読書に興味を持ち、生活が充実していくようにしていきたい。<br>福祉学習、職業体験学習などの総合的な学習に対しての生徒・保護者の関心・評価も高く、今後も地域の協力を得ながら、事前指導、事後指導を含め、さらに充実した取り組みにしていきたい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 生徒指導・生徒理解の充実 | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 始業前に全員が着席をし、落ち着いて授業に臨むことができている。服装については朝の会や始業時に点検しているが、違反者はほとんどいない状況である。毎週木曜日生活委員会を中心に「あいさつ運動」を常磐地区青少年部のあいさつ運動と共に行っている。<br>生徒自身も９割以上が規律を守り、落ち着いて授業を受けているという意識を持っている。しかし、年々改善傾向にあるものの、授業中うるさい生徒がいるというこえもきかれる。教師の指導ももちろんであるが、各学年で、室長会を中心に各クラスの現状を話し合い、取り組みをしている。改善傾向にあるものの、すべての生徒・保護者が満足していないという現状を踏まえ、生徒の変容を見逃さないために、毎日の連絡ノート、学期ごとの教育相談期間などを通じ、きめ細やかなコミュニケーションを図ってきている。また担任だけではなく、教科担当、部活動顧問という側面からも生徒の変容を捉え、職員間のコミュニケーションを密にするよう心掛けている。またスクールカウンセラーとも連携して、生徒理解に努めている。<br>生徒指導上の問題が発生した時は、学年全体、学校全体の教職員が問題の解決に向けて連携を図っている。普段の生活の会話や表情の変化を見逃さず、安心できる学校環境作りに向けて、今後も一層努力していきたい。 | |

| 重点目標４ | 教職員の指導力の向上と組織の活性化 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 本年度も研修テーマ「学力を定着・向上させるための授業づくり」として教科指導の実践を年間を通して研修を行ってきた。各授業での「めあて」の提示、「ふりかえり」を行うことについて全体で確認をして取り組んでいる。また授業研究の際は、提案授業前の教科部会での熱心な検討で教科の授業の高まりは見られているが、さらに、提案授業を通してお互いの授業の向上を目指して、全体研修会の中で「ワールドカフェ」方式を取り入れ、活発な意見交換から各個人の授業に生かせる授業研究会になるよう取り組んだ。<br>また教科部会の中で、各教科の指導の指導法や評価についても話し合うことができているが、さらに指導と評価が充実していけるようにしっかり取り組んでいきたい。<br>また校区全体の研修会においても「学びあい」学習の取り組みをテーマとして小中一貫した取り組みを目指している。 | |

| 重点目標５ | 保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 福祉体験学習や職業体験学習では、地域の方と連携して、毎年行っている。生徒の肯定的評価は比較的高いものの、さらに地域と根ざした取り組みであると感じ、将来的にも地域に貢献できるようになるように、地域と教職員の協働による授業をさらに進めていきたいと思う。<br>土曜授業による保護者の参加は増えてきているが、さらに、行事や授業公開など、保護者や地域の方が期待をもって参加してもらえるような取組を進めていきたい。<br>学校通信、学年通信、ホームページなどを通じ、学校の様子、学年の状況を発信して信頼関係を気づいていきたいと思う。さらに、気になる様子などについては、個別の家庭訪問、電話連絡等によって保護者と連携しながら取り組んでいきたい。また問題となった時だけではなく、普段から気軽に話し合える関係づくりが必要であると考える。<br>また学校自己評価でいただいた保護者からの意見を学校運営に生かしていきたい。 | |

２　改善方針

本校の生徒指導上の課題の根底には、授業が分からない、授業がおもしろくないなどがある。そこから、遅刻・早退・怠学による欠席などの問題行動につながることが過去に多くみられた。だからこそ、生徒をいかに授業に引きつけるかが重要である。基礎学力の定着、わかりやすい授業の実践により、生徒の学習意欲を向上させることが重要であり、それが生徒指導上の課題の改善につながるものと考える。

２・３年生の全ての数学授業で行った習熟度別少人数編制による授業形態や英語科のT・Tの授業を継続することも有効と考える。さらに、教科担任だけではない支援の教師による指導も効果的である。そのために、本校では、より多くの加配教員の活用が不可欠である。

また、家庭学習の定着化も重要である。宿題だけでなく、予習復習も大切な学習である。生徒自身が家庭学習の大切さを理解して、家庭での学習習慣が定着するように、家庭と協働してすすめていきたい。

補充学習として毎日行っている「Toki10」については、基礎的な計算や漢字力を身に着けることとして今後も継続して取り組んでいくが、さらに生徒の実情に合った集中して取り組めるものであるよう、内容・教科について検討し改善していく必要がある。

生徒指導で大切な「生徒理解の充実」について、引き続き重点的な取り組みとして継続していきたい。問題行動に対しては毅然とした厳しい態度で指導を行いつつ、そうなった原因や要因を見つめ、生徒の内面に迫れる指導を行う必要がある。ＰＴＡによって採択された「緊急アピール」に基づいた指導も、保護者の理解を得ながら続けていきたいと考えている。また、落ち着いている今だからこそ、現状に安心せず、教員全員が常に危機感を持ちながら、日々の教育活動を進めていくことが大切である。

部活動については、生徒指導上においても豊かな人間性を育成していく上でも重要な教育活動の一つであると考えている。多くの生徒が熱心に活動しており、どのクラブも日頃の練習の成果を発揮し好成績につながっている。しかし、長時間勤務の問題もあり、部活動のあり方や指導方針、活動計画などを検討して、有意義な教育活動としていきたい。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　西笹川中　　学校

1　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 「毎日登校」の取組＋「あいさつ・掃除・時間」の取組＋キャリア・多文化共生教育の取組 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | (1)「１年間の欠席日数10日未満」の生徒の割合を増やすことを目指して、デイリーノート等による生徒の状況把握、欠席２日目の対応、教育相談の充実、ＳＣとの連携等による不登校予防とともに、関係機関との連携、学校復帰・授業復帰のための段階的支援等を重点的に行った。<br>　これらの結果、目標とした数値を達成できる見込みである。これまでの学校の取り組みの積み上げによって、やっと効果が出てきたものと思われる。今後も、できるだけ学校を休まない（休ませない）という意識を生徒、保護者に浸透させるため、来年度も継続的な取り組みが必要である。<br>(2)「あいさつ」「掃除」「時間」についての生徒アンケートにおいて、肯定的回答の割合90%以上を目指して、生徒会や学年、学級リーダー等による生徒主体の取り組み等を重点的に行うとともに教員のふれあい指導指導を継続的に行った。<br>　生徒アンケートにおける肯定評価の割合は、それぞれ81%、89%、84%となった。４年間継続してきた取り組みであるが、昨年度の結果とほとんど変わらず、目標とした数値には少し及ばなかった。「あいさつ」「掃除」「時間」については、キャリア教育の視点から重要な取り組みであり、来年度以降も継続したい。<br>(3)キャリア・多文化共生教育についての生徒アンケートにおいて、肯定的回答の割合90%以上を目指して、各学年での系統的な取り組み、キャリア学習としての各学年行事、キャリア講演会等の実施、多文化共生サークルによる取り組み、地域活動への参加などを行った。<br>　しかし、生徒アンケートにおける肯定評価の割合は71%となり、目標を達成することができなかった。これは、アンケートの質問の変更によるところが大きいが、生徒自身が「将来の夢や目標の実現のためるの努力が自分にはまだまだ足らない」と自分を厳しく見つめた結果であるとも言える。 | |

| 重点目標２ | 確かな学力と社会への参画力の育成 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | (1)確かな学力の育成<br>　学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は93%となり、「本市小中学校平均」（平成27年度全国学力・学習状況調査の本市全小６中３の平均値：四日市市教育委員会『四日市市学校教育白書』による）よりかなり高い結果となった。教師の肯定評価の割合も96%と高く、外国につながる生徒を意識したわかりやすい授業の成果ともいえる。保護者の肯定評価の割合は昨年度より8ポイント上昇して88%となり、一定の評価を得られていると言える。今後も、外国につながる生徒を意識したわかりやすい授業の継続が必要である。<br>(2)個に応じた指導（日本語指導・支援、特別支援教育）の充実<br>　学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は92%と高く、教師の肯定評価の割合も86%とかなり高い。これは外国につながる生徒や特別な支援を必要とする生徒を意識した授業や取り組みの成果ともいえる。保護者の肯定評価の割合も昨年度より11ポイント上昇して92%となり、一定の評価を得られていると言える。<br>(3)キャリア教育の充実<br>　学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は71%となり、「本市中学校平均」（本市設問：「将来の夢や目標をもっている」、本校設問：「自分は、将来の夢や目標があり、その実現に向けて自分なりの努力をしている」）とほぼ同じ結果となった。また、保護者の肯定評価の割合は78%となっている。一方、教師の肯定評価の割合は89%と高い。今後は、学校の取組を保護者に丁寧に説明するとともに、家庭との連携を図って、「将来の夢や目標」「将来就きたい職業や今後の進路」「希望の進路の実現に向けた具体的な努力」「職場体験学習や修学旅行での企業訪問」などについて家庭でも話し合ってもらう必要がある。 | |

| 重点目標３ | 豊かな心と「ともに生きる力」の育成 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | (1)多文化共生教育の推進<br>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は94%と高く、教師の肯定評価の割合も96%と高い。また、保護者の肯定評価の割合は87%となっている。本校は外国につながる生徒が全校生徒の約30%を占めており、全教科・全領域において、「多文化共生」を基盤とした教育活動を展開することが使命である。この点について、今後も教員間の共通理解を図るとともに、中学校３年間を見通した系統的なカリキュラムに基づいて継続的な取り組みが必要である。保護者等に対しても、本校の具体的な取り組み、成果と課題等について丁寧な説明の継続が必要である。<br>(2)道徳教育及び人権教育の充実<br>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は96%となり、「本市中学校平均」よりも数ポイント高い結果となった（設問：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」）。また、保護者の肯定評価の割合も93%と高い。これらに対して、教師の肯定評価の割合は昨年度より24ポイント上昇して89%となった。今後も道徳や人権学習について、中学校３年間を見通した系統的なカリキュラムに基づいて継続的な取り組みが必要である。<br>(3)生徒会、学級活動、学校行事、部活動の充実<br>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は93%となり、「本市中学校平均」とほぼ同じ結果となった（設問：「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」）。保護者や教師の肯定評価の割合も90%を越えている。現在、どの学年の生徒も、体育祭や文化祭、修学旅行や自然教室、職場体験学習等の諸行事、部活動等において大変意欲的に取り組んでいる。その中で、生徒たちは中学生として必要な自主性、協力性、責任感、ねばり強さ、公共心などを徐々に身に付けてきていると思われる。 | |

| 重点目標４ | 健やかな心身の育成 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | (1)生徒指導の充実<br>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は94%となり、「本市中学校平均」とほぼ同じ結果となった（設問：「自分は、学校のきまり（規則）を守って生活している」）。保護者や教師の肯定評価の割合も90%を越えている。現在、生徒は大変落ち着いて学校生活を送っており、学力や学校行事等の他領域でも好結果が期待される。今後もこのよい雰囲気を継続したい。<br>(2)教育相談の充実<br>学校評価アンケートにおける生徒、保護者、教員の肯定評価の割合は昨年度よりそれぞれ6～11ポイント上昇し各79%、92%、85%となった。１、２学期に約１か月の教育相談期間を設定して取り組んでいるが、まだまだ十分な時間が確保できていない。今後も、思春期を迎えて多くの悩みや心配を抱えた生徒への丁寧な教育相談が必要である。<br>(3)心と体の健康教育の推進<br>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は75%と昨年度と同様に低い結果となった。本校生徒は、スマホ、ケータイの所持率やネット依存率が市内中学生よりやや高いという調査結果もある。今後もスマホ・ケータイ安全教室を継続するとともに、家庭との連携を図りながら規則正しい生活をさせる指導が重要である。 | |

| 重点目標５ | 地域とともにある学校づくり | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | (1)地域、保護者との連携（情報の発信と収集、地域行事への参加）<br>学校評価アンケートにおける生徒と教師の肯定評価の割合は、それぞれ昨年度より約10ポイント上昇して各82%、100%となった。これは、パネルディスカッションや学年の取組で地域について考えさせたり、地区行事へ部活動単位で参加・協力したりした成果であると考えられる。今後も地域とともにある学校づくりを進め、「笹川地区が好き」「笹川地区に住みたい」と思う生徒を増やしていきたい。<br>(2)学校教育力の向上<br>職員の仕事の効率化を図り、生徒との関わりの中で教師のやりがい満足度を高めるとともに、過重労働解消の取り組みを推進する必要がある。<br>(3)西笹中校区　学びの一体化の推進<br>小学校の統合を控え、西笹中校区の学びの一体化をさらに推進する必要がある。 | |

２　改善方針

| |
|---|
| 本校の中心課題の解決に向けて、多文化共生教育を基盤としたキャリア教育を継続的に推進する必要がある。特に、「学力の定着・向上のためのＪＳＬ教科指導型日本語指導によるわかりやすい授業づくり」と「地域と連携したキャリア教育」については、ＰＤＣＡサイクルよって必要な改善を図りながら系統的で継続的な取り組みが重要である。 |

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　三重平中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | ①　進路保障<br>「確かな学力の定着」「学び続ける力」「忍耐力」の育成 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【成果】<br>・ナビ学習では、今年度はラーニングガイドを活用した自主勉強を学力向上に関連づけて取り組むことができた。<br>・学力向上タイムやステップアップノートの取り組みで、学び続ける力や忍耐力が定着しつつある。<br>・体育の時間に、５分間走に取り組んだことが、少しずつ忍耐力の育成につながっている。<br>・小テスト、ドリル等の継続的な取り組み。<br>・毎日の授業での「めあて」「振り返り」。<br>・ＴＴにより細かな指導や声掛け、生徒の状況をより把握できるようになった。(道徳/学活/数学科)<br>【課題】<br>・与えられた課題については取り組めるが、自ら課題を見つけたり、解決方法を探すという点は弱い。<br>・学習意欲を持続できない生徒への指導のあり方。<br>・ステップアップノートが主体的な取り組みまで行けていない。書けない生徒への指示の明確化が必要。<br>・問題解決能力を高めるための授業計画などが、十分に高まっていない。また、それに必要な研修もさらに必要である。<br>・ICTの活用が不十分。<br>・進路や目的意識をもって物事に取り組めていない（先を読む力が弱い）→行動に結びついていない | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | ②　絆づくり<br>「豊かな人間性」「コミュニケーション力」の育成 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【成果】<br>・ペアやグループの学習を通しての仲間づくり。<br>・「平っ子タイム」「平っ子スタイル」の充実。3年間継続したことで、生徒にとっても取り組みやすくなった。（教職員間でのルールや目的の共有を進めることができてきている）<br>・ＳＳＴの定着や生活班による学習形態など、関わりやコミュニケーション力は徐々に高まっている。<br>・道徳・学活・総合は、生徒の実態に応じた課題を精選し、生徒が主体的に考える機会になった。<br>・生徒指導体制の整備が進み、教職員間で共通理解が図れた。また、特別支援学級担任や関係機関とも連携できた。<br>【課題】<br>・「話す」「聴く」態度の育成をさらに目指す。<br>・「ありがとう」「お願いします」「どうぞ」等の生徒同士でもお互いに、自然に言い合えるようにする点で、重視するポイントが学年間で違うところがある。<br>・普段の授業で、平っ子タイムのルールが十分活かされていない。平っ子タイムは月曜日が適切なのか考える必要がある。（休み明けの終学活は連絡や確認事項が多いため）<br>・学校全体で道徳、キャリア教育の全体計画を立てて取り組む。<br>・授業で良い意見が言えても、実際の学校生活での絆つくりに直接つなげられない。<br>・授業のあいさつの「分離礼」や、集会での号令の掛け方（「お願いします」か「礼のみ」か）も学校で統一できるとよい。 | |

| 重点目標３ | ③　保護者・地域との協働<br>地域資源を活かした、地域とともにある学校づくり | 4 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【成果】<br>・里山保全、三世代交流フェスタ等の活動への参加<br>・生徒会と福祉委員会でサロンスマイル（三重地区）や独居老人への年賀状作成<br>・炊き出し訓練<br>・子ども教室、学習ボランティア<br>・コミュニティースクール<br>・防災教室、子ども教室、漢字検定の取り組み、平ウォーカ等効果的である。<br>・３年生の選択総合は有効であるが、講座数も多く教職員の負担も多い。（非常勤の先生に頼る部分もある）<br>・地域子ども教室の継続的な実践により、生徒の学力保障を行い、保護司や主任児童委員の方などと生徒の家庭環境や地域の情報共有が素早くできている。<br>【課題】<br>・部活動単位での参加が多く、生徒の意志でない参加が多い。生徒の意志で参加するケースは少ない。<br>・家庭の教育力の向上に向けた取り組みや呼びかけ活動など。<br>・子ども教室への参加が減少しているので、今後どのように継続させるか。<br>・総合的な学習で行っている取り組みなどを地域へ発信することはできないか。<br>・受験を控えた3年生の子ども教室への参加が少なく、呼びかけ方法などの見直しが必要。 | |

| 重点目標４ | ④　学校教育力の向上使命感と情熱ある志の高い教職員集団の構築 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | 【成果】<br>・日々のＯＪＴ研修の推進<br>・職員間のコミュニケーションの充実<br>・学年内でＯＪＴを進めている。<br>・授業公開を気軽に見ることができ、授業づくりなどへの参考になった。<br>・ＳＣ、ＳＳＷとの連携を密にして、ケース会議や教育相談を実施している。<br><br>《課題》<br>・保護者、地域、関係機関との連携づくりを進め、組織的な体制の構築<br>・ＯＪＴのさらなる推進、ミニ研修会の充実など<br>・目指す生徒像とそれに対しての指導や生徒理解において重視するポイントが違うところがある。<br>・県外研修に出やすい体制作り<br>・教職員減少になるので、県外研修はこれまで以上に出にくくなることが懸念される。<br>・心身ともに健康に働ける環境づくりをすすめる。 | |

２　改善方針

・教職員間のコミュニケーションを充実させる。
・話し合いや相談はできるが、深く考えたり、議論をすることに課題が残り、教科授業の中でその時間を設け訓練していく。
・会議の短縮化を図り、子どもと接する時間を増やす。（職員会議は改善が進んでいる）
・ＳＣ、ＳＳＷを講師に招いての小中合同研修会などで、教員の共通理解を深める。
・教科担当者と担任とのコミュニケーションをもっと図る。
・小中合同研修会などで、教員の共通理解を深める。平っ子スタイルを小学校から始められるとよい。
・三重平中の教育はカリキュラムとして洗練されており、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等、ポイントを確認し合い、「凡事徹底」を意識する。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　羽津中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | 確かな学力の向上 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○学びあいの充実と基礎的・基本的な知識の定着<br>３年前より、全学年の各班に１枚のホワイトボードの導入を行い、あらゆる場面でペアや４人班の学びあいの取り組みを活発に行ってきた。そのため、ホワイトボードを活用した学び合いが全教科・全活動で行われるようになり、生徒が自然に自分の考えをスムーズに言えたり、友人の意見を聞き、まとめて発表できる力もついてきたように感じられ、「仲間と勉強を教え合い、学び合うことができた」と答える生徒は85.4%に上った。しかし、グループ等の作り方等については課題が残った。<br>また、引き続き、本時のめあてを提示し、生徒に振り返させることで、生徒の理解を深め、さらに授業のねらいを明確にして、授業改善を図っていきたい。<br><br>○キャリア教育の視点を大切にした学習の推進<br>３年前より、キャリア教育の視点を軸とし社会的・職業的自立のための４つの力を明記し、つけさせたい力を意識して教科活動、特別活動等に取り組んだ。研究授業、各活動の目標においても、キャリア教育でつけさせたい４つの力を明記し、それを意識し活動を展開してきた。しかし、４つの力を意識させるキャリアカードの活用ができなかったことで、「育成できなかった」という捉え方の違いが生じ、教師の評価が0.2ポイント下がったことにつながったように考えられる。学校行事・学年行事をはじめとするいろいろな活動の中で、教師がどう意識して取り組んでいくのかが今後の課題である。<br><br>○家庭学習の推進<br>Ｄａｉｌｙ　Ｓｔｕｄｙ（毎日の学習）の取り組みを行い５年になる。家庭学習に対する生徒へのアンケート結果は昨年度より0.1ポイント下げたものの、3.6と高い結果が得られたが、生徒によって取り組みに差がある。自分でまとめる生徒にとっては、家庭学習をしている充実感はあるが、写しているだけに留まっているだけの生徒にとっては身についていない現状もある。目的を再確認し、全ての生徒にとって有意義な取り組みになるよう、進め方や個々の生徒への対応等について改善し、引き続き家庭学習充実に向けた工夫をしていく。 | |

| 重点目標２ | 心を豊かにする羽津らしい活動の充実 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○生徒主体による規律ある学校生活の推進<br>生徒会を中心に代議員や各専門委員会の取り組みは、生徒・教師とも意識が高く、充実した活動をすることによって、規律ある、落ち着いた学校生活を送る環境を整えることができた。生徒会を中心とした規律ある学校生活に関するアンケート調査で肯定的な回答をした生徒は85%、生徒の自主的な活動に関するアンケート調査で肯定的な回答をした生徒は88%であった。「あいさつ」については誰もが出来たと評価できるようなより質の高いあいさつに対する取り組みを積極的に実施していきたい。<br><br>○文化・芸術活動の充実<br>「山のコンサート」「合唱コンクール」では、合唱実行委員会や生徒会を中心に一生懸命取り組んでいる姿が見られたものの、評価目標を達成できなかった。さらに、合唱実行委員や生徒会のみならず、学校全体が関わって取り組んでいきたい。生徒・保護者の評価は昨年同様の3.5、3.4で、教師の評価は昨年より0.1アップの3.1であった。さらに教師全員の共通理解を図りながら、伝統ある地域に根付いた素晴らしいものにしていきたい。<br><br>○道徳・人権学習の充実<br>道徳においては年間計画はあるものの、具体的な計画を事前に提示し、学年で検討するという点で弱かったと思われる。教科としての道徳の「全体像」を共有できるようにしていくことが必要である。人権学習においては、人権フォーラム・人権講演会・人権集会と学年でシステムを変革した１年目であり、各学年とも計画を意識することができた。取り組みの移行期でもあるため、継続して３年間を見通した学習を行っていきたい。 | |

| 重点目標３ | 相互信頼に基づいた生徒指導 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○生徒指導の充実<br>３年前より、週１回行われる生徒指導委員会で話し合われた情報について、全教職員にメールで知らせ、組織的な対応ができるようにしてきた。学校全体で共通理解を持ち、積極的に他学年の指導にもかかわることができた。メール配信により全学年の生徒の様子を把握することができ、全ての職員が同じ目線で生徒を見ることができた。その成果もあり、生徒指導の教師に対するアンケート「情報共有と敏速な対応」については、93%の教師が肯定的な評価を行っている。また、引き続き、不登校、支援生徒を含めて生徒指導報告に一本化したので情報量は多くなったが重複することがなくなった。今後も継続して行っていく方向である。<br>現在、生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送っているが、現状に満足することなく、さらに生徒との信頼関係を高める中で生徒指導を進めていきたい。<br><br>○研修を深め効果的な教育相談の実施<br>教育相談に関する教師に対するアンケート結果は昨年同様3.0であった。生徒に対するアンケート「教育相談で話したとき、先生は親身に話を聞いてくれましたか」の質問に対しても昨年同様3.7ポイントで高い評価を得られ、92%の生徒が肯定的な評価を行っている。しかし、教師は定期教育相談期間を活用することはできたものの、多忙な状況下において、担任中心の教育相談になりがちで、ゆっくり生徒に寄り添えなかったり、養護教諭やＳＣ、他の教師との連携不足を感じることもあった。今後も生徒のいろいろな状況に対して、組織的に対応できるよう共通理解を図る必要がある。<br><br>○不登校対策の推進<br>隔週で、不登校対策委員会を実施し、その中で話し合われたことや生徒情報を、全教職員にメールで知らせ、共通理解できるように努めてきた。支援が必要であったり、長期欠席につながりそうな生徒に関しては、ケース会議を開き、支援方法等を管理職を含め複数の教職員で対策を講じてきた。また、生徒や保護者を外部機関やＳＣにつなげ、不登校対策を行うこともできたが、これまでの指導や支援では改善が難しい生徒も多く、新規不登校生徒を５名以内にという評価基準は達成できなかった。情報共有のみに終わるのではなく、早期の対応についてより成果をあげていきたい。 | |

２　改善方針

重点目標１　確かな学力の向上について
- 問題解決能力向上のための授業づくりの取り組みを進める。
- 学校活動の全領域で、キャリア教育（社会的・職業的自立のための４つの力）の視点を取り入れ、生徒が自らの成長を感じ取れるような取り組みを進める。
- 日々の家庭学習の充実を図り、生徒個々の学習状況を把握し基礎学力の向上を目指す。
- 読書活動の推進を継続する。

重点目標２　心を豊かにする羽津らしい活動の充実
- 行事を含めた学校活動において、生徒が主体的に活動できるような取り組みをさらに推進する。
- 教材の研修を深め、道徳の教科化に向けて道徳授業の充実を図る。
- 学校便りや、学年通信、ホームページを活用して保護者や地域への日常的な発信を行い、地域や保護者と連携した学校づくりを継続する。
- 外部講師の活用を積極的に行い、生徒に本物の文化・芸術や、いろいろな価値観、発想に触れさせる機会を設ける。

重点目標３　相互信頼に基づいた生徒指導
- 不登校生徒の減少に向け、ＳＣとの連携を深めるとともに、効果的な外部機関との連携や不登校生徒へのよりよい支援方法等の研修を深め、ケース会議の充実を図る。
- 問題行動・生徒の情報を敏速に共有し、きめ細かい生徒指導を継続する。また、現状に満足せず、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。
- 教育相談や教師と生徒の信頼関係の一層の充実を図るために、外部講師の招聘を行い、生徒理解に対する研修の推進を図る。
- 保幼小中との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密にし、生徒指導や教育相談にあたる。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　西朝明中　　学校

## １　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標１ | **「学びあいを通して」確かな学力の定着・向上** | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ・自主学習ノートの取組で、自分から学習方法・内容を選択して家庭学習に向かう姿勢を育てられている。また、学びたいむにおいては、全校生徒で学力アップに向けて努力する雰囲気を高められている。<br>・ペア，4人グループ等を活用した学び場の設定により、自らの学びが豊かになり、最後まで課題に粘り強く取り組もうとする姿勢が見える生徒が増えてきた。<br>・成果としては、話し合い、活動、反省というサイクルが生徒に浸透して、試行錯誤しながら技能向上を目指すことが増えた。課題としては、話し合いが真剣にできずだらだらと話していたり、お互いのコミュニケーションがうまく取れないなど、ただ活動を流している生徒もいた。<br>・公開授業研究会や、授業公開週間、先進授業参観などの活動を通し、他の人の授業を見ることで、自分たちの授業を振り返り、改善することができた。<br>・互いに質問しあい、教えあったり、議論し合う姿はかなり定着してきてる。四日市モデルに関しては、まだまだ浸透しておらず、学校全体での研修を進める必要がある。 | |

| 重点目標２ | **互いを尊重し高めあう集団の育成** | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ・教育活動のさまざまな場面で集団活動を取り入れた。他の人と交流することの楽しさや意義を感じさせることができ、生徒同士の絆が深まった。<br>・生徒の実態や学年の時期に応じて、道徳の授業を進めることができ、行事を通して仲間づくりを進めることができた。<br>・各学年で生徒集団の課題を的確にとらえ、仲間づくりの指導が根気強く進められている。学習や生活に困難を抱える生徒への対応が少しずつであるが意識されてきている。<br>・道徳、人権学習は熱心に行われた。普段の生徒の心ない発言や行動等には、引き続きアンテナを高くし、一人ひとりの生徒を大切にしていく必要がある。<br>・大きないじめはなく、比較的まとまりのある集団と考えられるが、個々のつながりが希薄な部分もあるので、人権学習、道徳教育のさらなる充実が必要と考える。<br>・いじめや差別的な言動がややみられる。 | |

| 重点目標３ | **健康（心身）の保持増進と体力の向上** | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ・観察・声かけ、教育相談などを通じ、生徒一人ひとりをきめ細かく見守ることができた。<br>・体育授業で、西朝トレーニングに取り組むなど、生徒の体力増強に励んでおり、かなり体力がついてきている様子がある。また駅伝の取り組みなどは、参加生徒のみならず他の生徒の意識づけにも寄与している。<br>・スマホ・ゲーム・ライン・など、家で夜・夜中にしている生徒が増えてきたように思う。家庭でも個人の使い方を把握しきれていないと思う。自分の欲求のコントロールが難しくなってきている生徒が増えていると思われる。<br>・登下校時、送り迎えをしてもらっている生徒がとても多い。<br>・困難を乗り越える心のタフさが育っていない生徒の割合が多いと感じられる。<br>・スクールカウンセラーの活用や外部機関の紹介などはかなり活用が進んでいる。<br>・昨年度に比べ、不登校者数は減少傾向にあるが、全体的に「心の体力」が弱い生徒が多く、繊細な対応を求められることが多かった。今後も教師側の丁寧な対応を継続する必要がある。<br>・保健だよりや保健室前の掲示物を通して、子ども達にたくさんの情報を発信できていると思う。 | |

## ２　改善方針

・本校で、課題と思われることは、教師の教育愛の発揮についてである。教師の細やかな愛情の発露としての授業であり、学級経営であり、部活動指導として大切にしたい。
・重点目標の１については、アクテイブ・ラーニングの手法を活用し、生徒主体の授業をより進めていくことも改善方向の一つである。
・学力向上等の取り組みにおいて、効果の上がるものは継続し、効果の疑問視されるものは精選し、教師集団が余力を持って指導に当たれる時間を増やす。その分、特別支援などの個別支援に関わる時間を増やす。
・個別の支援が必要な生徒が少なくない。専門的知識があり具体的なアドバイスを受けることができる地域コーディネーター、スーパーアドバイザー、スクールカウンセラーの方たちと話ができる機会を積極的に持っていく。
・四日市モデルを活かした授業改善を、研修委員会が中心となって推進する。
・タフな心を持てるように、生徒の自尊感情を高め、安心して生徒が生活できる学校にしていく。
・人権学習の場面だけでなくどの場面でも「差別は許されない」という姿勢を教員が見せることが必要である。
・互いを尊重し合う生徒が十分に育成できていないように感じるので、教師の言葉づかいや、声掛け、働きかけなど、互いを尊重し合う生徒を育成するための取り組みは、もう一度見直す必要がある。研修として、互いを尊重しあう生徒が育成できた取り組みや指導、教材を各学年で交流したい。具体的な報告があると、教師の力量が高まっていき、教育財産になっていく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　桜中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 確かな学力の育成 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | **≪主な方策と成果≫**<br>①テスト期間中の補充学習を定期的に開催し、個別の指導を行うことで、学習意欲を高めることにつながった。<br>②小テストなどを定期的に実施することで、基本の定着が図れた。<br>③帰りの会などを利用し、シート学習を行うことで、落ち着いて学習する環境が整い、学習の向上が見られた。<br>**≪課題≫**<br>・授業改善について、各教科での「めあて」「振り返り」など一定の共有はできているが十分とは言えず、今後は以下のことに力を入れていきたい。<br>①「書く」ことに視点をおいた基礎学力の定着<br>②問題解決能力向上をめざした授業改善<br>③授業と家庭学習との連動 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 豊かな人間性の育成 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | **≪主な方策と成果≫**<br>①福祉体験学習や職業体験学習の取り組みでは、地域のボランティアの方々の講演により、地域と連携した学習ができた。<br>②集会での生徒会の役割を増やしたり、集会時に常に校歌を歌うなどして、生徒の自治能力・連帯感を高めることができた。<br>③ＰＴＡ主催の講演会では、在宅医療の現状に関する内容から、命の大切さを学ぶことができた。<br>**≪課題≫**<br>〇課せられたことにはきちんと取り組む（勤勉）ことはできるものの、何事につけ主体的に取り組む姿勢（自立）が十分とは言えない。また、重篤ではないものの仲間に対する思いやり（敬愛）を欠いた言動が見られる。そこで、学校づくりビジョンを新たにして「自立」「勤勉」「敬愛」からなる校訓を鮮明に盛り込み、課題に対して逞しく、また粘り強く取り組み、仲間に対する心遣いができる生徒の育成を目指して、キャリア教育と人権教育を軸とした教育活動の刷新を図る。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | 健やかな心と体の育成 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | **≪主な方策と成果≫**<br>①保健体育科の授業だけでなく、部活動の指導に積極的に取り組むことで、体力の向上につながった。<br>②学期ごとに教育相談週間を設け、ＱＵ調査などを利用し教育相談体制を充実させることで、生徒理解が深めることができた。<br>③防災フェスタ・避難訓練などにより、自助・共助の大切さとともに、中学生が期待されている現状を知り、生徒の災害に対する意識を深めることができた。<br>④不登校の生徒に対し、本人・保護者・学校で綿密な協議により計画的な別室登校を実施するなどの合理的な配慮をして、不登校対策を組織的に取り組むことができた。<br>**≪課題≫**<br>〇間違いを指摘されるととても傷つきやすく、素直に自分の非を認められない生徒が多くなっており、教師の指導が受け止められないこともある。今後は、カウンセリングマインドに立った生徒指導の研修を深めていく必要がある。 | |

| 重点目標４ | 教職員の指導力向上と組織的な進行管理 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **≪主な方策と成果≫**<br>①研修会においては、小集団討議の機会を増やすことで活発な意見交換ができ、研修の活性化を図ることができた。<br>②生徒の実態に基づいて各職員が新たな学校づくりビジョン案を提案し、それに基づいたビジョンが策定できた。<br>③校内の勤務時間縮減検討委員会を発足させ、次年度からの取組案を策定することができた。<br>④会議資料の電子化を図り、朝の打ち合わせと職員会議の短縮化ができた。<br>⑤合理的配慮についての校内の方針を整理し、組織的な対応ができた。<br>**≪課題≫**<br>①本校の研修は停滞傾向であったため、生徒の実態、教育の動向、新学習指導要領の要点から教育活動、研修を見直していく必要がある。<br>②情報共有、報連相については、一層の徹底を図る必要がある。 | |

| 重点目標５ | 家庭・地域との協働 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | **≪主な方策と成果≫**<br>①福祉体験学習での桜ボランティア、見守り隊、桜地区防災会議と協力した防災フェスタ、生徒会と青少協との討論会など、地域で活動される方々と話し合える機会があり、学校教育への理解につながった。<br>②いっすん奉仕などのＰＴＡ活動を土曜授業に開催することで、保護者と生徒だけの活動に終わらず、地域の方々の協力につながった。<br>③各地区の行事や人権大会に教職員が積極的に参加することで、地域の良さを再認識ることにつながった。<br>**≪課題≫**<br>・四日市版コミュニティスクールの指定を受けて２年目であったが、以下のような現状等から取組を見直していく必要を感じた。<br>①地域行事について言えば、参加は地域からの依頼をうけての募集によるもので、学校での学習との連携がほとんど取れていない。<br>②地域との連携した学習にしても、外部講師を招へいすることがほとんどであり、地域貢献的活動は十分実施されていない。<br>③こうしたことから、全国学調の調査結果では、地域社会への関心が４年連続して全国平均以下である。<br>④また、全国学調の調査結果からは、生徒は保護者の学校行事に対する関心が低いという認識であることが明らかになっている。 | |

２　改善方針

**１　全教職員で、以下に示した新たな学校づくりビジョンに明示した教育活動にあたる。**
〇確かな学力の育成　　①主体的・対話的な深い学びの推進（自立）　②「わかる授業」づくりと家庭学習の充実（勤勉）　③ 問題解決的な能力の育成（敬愛）
〇豊かな心と健やかな体の育成　　①将来を見据えたキャリア教育の推進（自立）　②体育・健康の指導の充実と食育の推進（勤勉）　③より良い仲間づくりによる人権教育の推進（敬愛）
〇信頼される学校づくり　　①きめ細かな教育相談・特別支援教育の推進　②計画的な安全教育・防災教育の実践　③教職員の資質の向上　④より良い教育環境の実現
〇家庭と地域等との連携　　①コミュニティスクールの推進　②地域に開かれた学校の推進　③学びの一体化の推進

**２　３年間を見通した「学びのカレンダー」を策定するとともに、地域関係者に対する授業参観の機会を増やし、地域に開かれた教育課程の実現を図る。**

**３　保護者・生徒アンケートについて、新たな学校づくりビジョンとの整合を図るため、アンケート内容を抜本的に見直す。また、コミュニティスクール運営協議会委員にもアンケートにご協力いただく。**

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　内部中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 豊かな人間性と健康な心身の育成 | 4 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○ともに生きる力を高める仲間づくりに取り組みます。<br>①コアラタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実<br>②Ｑ－Ｕ調査を活用した学級づくり<br>○キャリア教育の育成に努めます。<br>①志講演・志授業による長期的な人生設計についての学習<br>②身近な「生き方モデル」から学ぶ　「プロに聞く：企業人による講演」<br>③職業観・勤労観、社会人としてのマナーを学ぶ「職業体験学習」<br>④中学校３年時の進路選択を支援する。「学力補充」「高校体験講座」等<br>成果と課題<br>・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、学校全体の学習意欲が高まってきている。また、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができた。<br>・進路の実現のために今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりを見出す指導を継続していく。<br>★学校自己評価において<br>「学校は，生徒一人ひとりが，楽しい学校生活を送れるように努めている。」<br>→　肯定的な回答　　生徒９１％　保護者９１％<br>「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」→　肯定的な回答　　生徒９２％　保護者９２％ | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 確かな学力の向上 | 3 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○基礎基本の定着とわかる授業を目指します。<br>①ＴＴの効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援<br>②電子黒板やプロジェクタを活用した授業の実施<br>③全国学力・学習状況調査やＮＲＴ（到達度検査）の分析と活用<br>④放課後、長期休業中、土曜日を活用した補充学習　等<br>成果と課題<br>・「朝の読書」によって、静かに一日が始まり、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。<br>・学力補充の機会を利用する生徒が増加している。<br>・支援の視点での授業改革や問題解決能力の向上に向けて、生徒が主体的に学びあう授業をめざし、授業研究をさらに進めていく。<br>★学校自己評価において<br>「学校は，生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。」<br>→　肯定的な回答　　生徒９４％　保護者８９％<br>「学校は，「朝の読書」や「補充学習」等で充実した時間を過ごさせている。」<br>→　肯定的な回答　　生徒９４％　保護者９５％ | |

| 重点目標３ | 地域とともにある学校づくり | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br><br>成果と課題 | ○学校からの情報を発信します。<br>①学校便りやＨＰによる情報発信<br>②積極的な学校公開　等<br>○地域との連携交流に努めます。<br>①生徒の地域行事への積極的参加体制の構築<br>②地域人材によるゲストティーチャーの活用　等<br>成果と課題<br>・ＨＰによる配信、定期的な学校便りによる発信は、日々の学校の様子をタイムリーに知らせることができ、本校の目指す教育について多くの方に知ってもらっている。<br>・内部川清掃、地区防災訓練、地区文化祭、あったか訪問等の地域行事に中学生が多数参加することで、地域の活性化につながっている。<br>★学校自己評価<br>「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」<br>→　肯定的な回答　　保護者９４％<br>★学校関係者評価<br>「生徒は地域行事へ参加していますか」　　３．４（４段階評価）<br>「学校の様子は伝わっていますか（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等）」　３．３（４段階評価） | |

２　改善方針

１　豊かな人間性と健康な心身の育成

本校はキャリア教育に関する特色のある取組（志講演、志授業、プロに聞く、高校体験授業等）を多く行っており、本校の教育の中に定着している。さらに、子どもたちのキャリア発達を促すという視点でこれらとともに日常的に行われている教育活動を関連付けて、生徒の発達段階に応じたキャリア教育を実践していく。

また、遠い将来を考えるキャリア教育から日々の生きる力を確実なものにしていくキャリア教育へのシフトをさらにすすめ、「将来のための今を考え大切にする生徒」を育成する体制を整えていく。

２　確かな学力の向上　～基礎基本の定着とわかる授業～

落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い中で、学力不振や自己肯定感が低いことが原因で不登校になる生徒も存在している。コアラタイムなどの教育相談体制をさらに充実するとともに、課題の提示の仕方、学習形態、授業形態、教具等の工夫など支援の視点に立った授業づくりに取り組んでいく。

また、「聞聴スタ」など「聴く」ことを重視した取り組みも進め、それを「伝える」ことへの取組に結び付け、生徒同士がつながりの中で学ぶ授業づくりにも取り組んでいく。

３　地域とともにある学校づくり

交通安全や防犯の観点から、通学路点検作業など地域・保護者と一体となった取組を進めるとともに、命を大切にする安全教育を進めていく。

采女川清掃、地区防災訓練、あったか訪問など地域行事にも積極的に参加し、中学生が地域とともに活動する機会を増やす。

学校の様子や地域での様子をＨＰ等で積極的に地域に発信し、学校の強み・弱みを理解していただき、学校教育を側面から支援していただける方や組織を増やしていく。「内部の子は内部で暮らすみんなで育てる」という意識の浸透を図っていく。

【様式１】

# 自　己　評　価　書

四日市市立　　楠中　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標１ | 学力の向上に向けて | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○学校教育目標に掲げている「基礎基本の定着と問題解決能力の育成」に向け、学習や生活リズムの確立等を中心とした取組の充実を図っている。また、研修委員会を中心に「授業の四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」等を作成し、授業・補充学習・家庭学習等の子どもの主体的な取組につなげることができた。さらに、生活リズムチェックシートを活用し、日々の生活面等の検証や改善に努めた。<br>○学びの一体化においては、中学校区の保幼小中教職員が、研究テーマ「学力向上に向けて～進んで学ぶ子どもの育成～」に向けての研修を深めることにより、本地区の子どもや保護者がかかえる教育課題が明確になった。また、それらの課題を共有し、具体的な対策を立てて取り組んだことにより、子どもの主体的・協働的な学びに結びついた。今後ともこれらの取組や研修等の検証や振り返りを行い、保幼小中が連携した研修を深め、さらなる改善に努めることが重要である。特に小１プロブレム、中１ギャップ等、保幼小中の連結をよりスムーズにしていくことが今後の課題である。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標２ | 生徒指導の充実・特別支援教育の推進 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○週1回行われる生徒指導委員会では、SCも入り生徒の情報交換及び課題解決に向けての対策等を話し合い、学習・生活規律を中心にきめ細かな情報共有を図っている。特に複雑で多様な課題を持つ不登校生徒に対する指導･支援については、SC、民生委員、市教委等と連携を図り、生活状況やその背景等、本人（保護者）の願いや思いを受け止めながら、チームが一丸となって取り組んでいる。３年生の不登校生徒については、希望する進路につながった。<br>○特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育コーディネータを中心に特別支援委員会をはじめ、毎週の生徒指導委員会や職員会議等で現状と対策を話し合っている。また、全教職員が一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった組織的な教育支援につなげている。これらの取組により、教職員と生徒や保護者の信頼関係が深まった。さらに、子どもの目線に立ち、個々の課題等を取り除いていくための合理的配慮等の研修が今後の課題である。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 重点目標３ | キャリア教育の推進 | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○学校教育目標の「志を持ち、自らの進路を切り拓いていける生徒」の育成をめざし、３学年は、「進路に向けての学習や高校訪問」等の実践的な取組を行った。２学年は、地元企業における「職場体験学習」を行なった。１学年は、「高齢者交流会」において地域学習や将来を考える学習を行なった。また、これらの取組に向けての事前学習や事後学習等、お互いの取組の成果を文化祭等で発表し確認し合うことで、生徒同士のつながりを学年をこえて深めることができた。<br>○卒業生を招いてのキャリア教育学習会を全校体制で行い、高校の授業や生活面等の話を聞くなど、たいへん有意義なものとなり来年度も継続していきたい。<br>○学校公開日での参観、学校だよりやＨＰ、各通信で保護者や地域等に情報を発信することにより、学校に対する理解と協力を得ることができた。 | |

| 重点目標４ | 体づくり運動の充実・健康教育の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○体づくり運動の充実と生徒の健康意識を高めるため、保健体育授業の中で生徒の自主的な活動として、新体力テストの本校の弱みをふまえ、独自に考えた筋力トレーニングやランニング等を実施している。また、12月上旬より2月下旬にかけて部活動の朝練習において、一斉に20分間ランニングを行っている。これらの取組により、平成29年度新体力テストの結果では、男女とも昨年度にくらべ向上した種目が見られた。<br>○保健委員会活動においては、規則正しい生活リズムや食育教育の充実を図るため、「早ね・早おき・朝ごはん」に重点をおいた生活リズムチェックの取組を行なった。また、毎日の健康観察やアンケート結果を通し、生徒の生活状況や食育等の実態把握に努めた。これらを、保健委員会活動として生徒がパワーポイントを活用し、全校保健集会で呼びかける等の啓発活動を行なった。さらに、これらの年間を通しての取組を養護教諭が中心に「平成29年度学校保健資料」にまとめ、管理職、養護教諭、学校三師、ＰＴＡ等による学校保健委員会において、現状報告と情報交換を行った。 | |

| 重点目標５ | 学び合いを基盤とした教育の推進 | 3 |
|---|---|---|
| 主な方策<br>成果と課題 | ○子どもの学ぼうとする力を育成するために、授業における教師の支援方法、子どものアクティブラーニングについて、さらなる研修を深める必要がある。また、授業における「ねらい」「振り返り活動」についても研修の充実を図りたい。<br>○学びの一体化研修の一環として行っている小学校との乗り入れ授業では、数学・音楽等の授業を行い交流を深めることができた。<br>○新入生一日体験入学においては、児童が選択した30分間の授業を２教科体験した。教師や仲間の話を意欲的に聴き、自分の考えや思いを進んで発表することができた。この取組を通し、中学校の学習や生活に向けてのイメージを持つことができた。<br>○文化祭では保育園児・幼稚園児・小学校児童を招待し、合唱コンクール鑑賞や展示見学を行なった。これらの交流を行なうことにより、子どもたちが相互に良さや違いを認め合い、絆を深めることができた。また、毎年実施している巨大地震による津波を想定した合同避難訓練では、中学生が保育園児の手を引き、本校屋上に安全に誘導する等、危機管理の徹底及び意識の向上を図ることができた。 | |

２　改善方針

・教職員間で確認したことや取り組むべき指導について、教職員がきちんと理解をして実践していくことが必要である。担当者任せや提出期限等がおろそかにならないよう自覚したい。共通理解が名ばかりのものとなっては、一部の教職員に負担がいき、結局は生徒への指導に差異が生まれ信頼関係を構築できなくなる。
・3年間でどのような生徒を育てていくのか、そのためにはどの時期にどのようなことを学習させていくべきなのかを考えて計画し、実行していく必要がある。学校教育目標の達成に向けて、教科横断的なカリキュラムを研修していく必要がある。
・教職員全体が、担任・学年関係なく生徒一人ひとりを大切にし、親身になって関わっていく姿勢を持つ事が大切である。そのためには、良いことも悪いことも早急に情報を共有しながら支え合える組織にしていく。
・本年度、PC上のフォルダ整理に取り組んできた。徐々にではあるが、次年度に引き継ぎやすい保存形式となってきている。次年度に活かすフォルダ管理について、再度、確認が必要である。
・日々の教育課題を一部の教職員が抱え込むことのないよう、全教職員で力を合わせて課題解決ができる、風通しの良い活気のある職場環境をつくる。